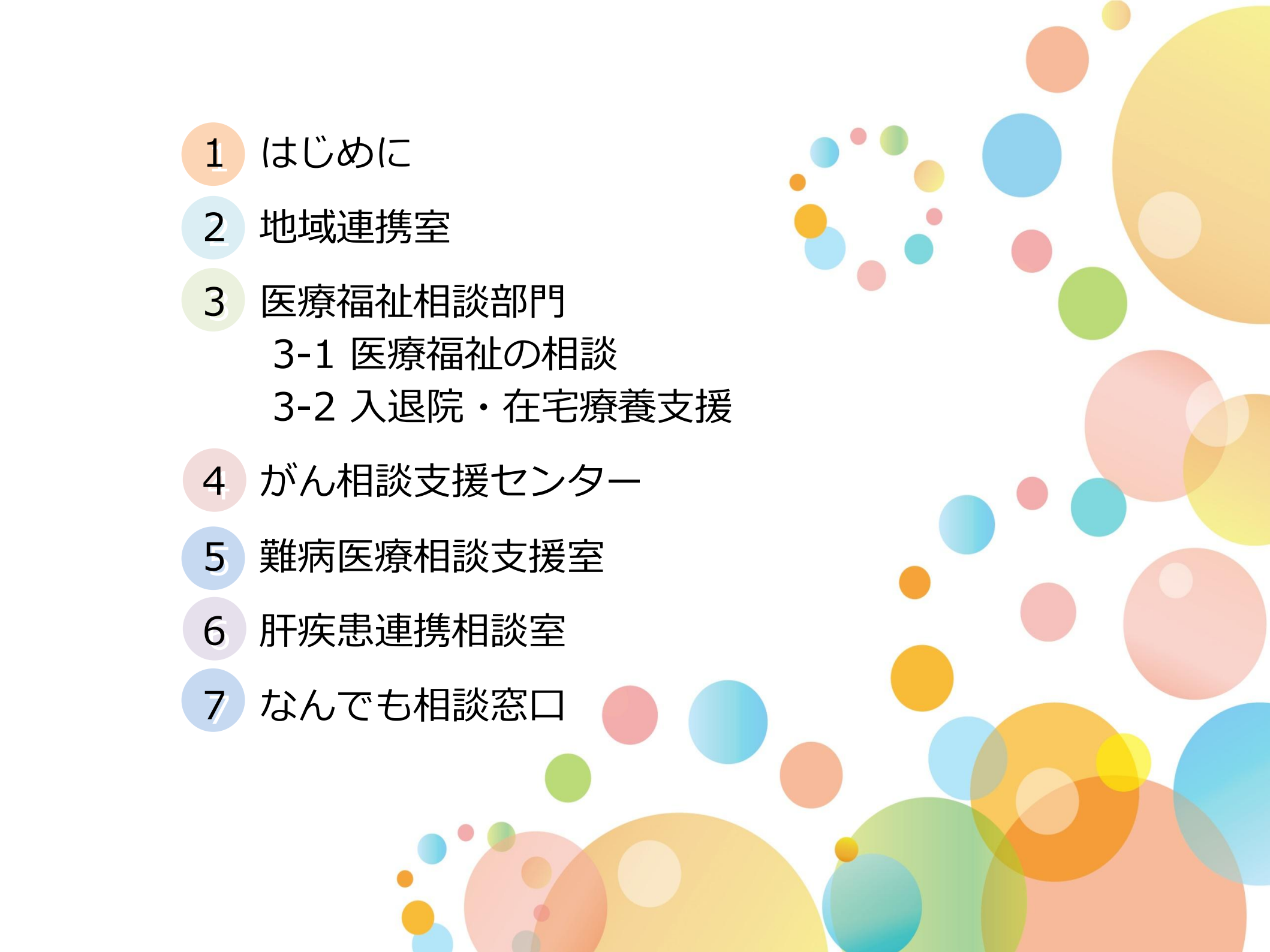


ANNUAL REPORT2024

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター





1 はじめに

2 地域連携室

3 医療福祉相談部門

3-1 医療福祉の相談

3-2 入退院・在宅療養支援

4 がん相談支援センター

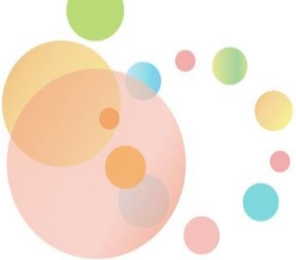
5 難病医療相談支援室

6 肝疾患連携相談室

7 なんでも相談窓口

1 はじめに





はじめに

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター長
安田日出夫

2024年度は、2019年から始まった新型コロナウイルス感染症が感染症法における2類から5類への移行し、収束へ向かった年でした。医療福祉支援センターにとっては病院内における医療福祉支援センターの貢献度をさらに上げるための以下の様な体制構築に尽力した年でもありました。

2023年6月 なんでも相談窓口 開設

2023年9月 入退院支援のための病棟専従看護師 配置

2023年11月 高齢者・障害者・DV虐待防止委員会 開催

通常業務に加えてこれらの体制を整備するのは大変で、センターの現場レベルでは追い込まれることもあったと思います。

2023年度から赴任した河合師長が中心となって、なんでも相談窓口は高田師長、病棟専従には内山副師長、虐待防止委員会では鈴木任哉社会福祉士などが多大な尽力をしてくれました。センター内の個々のメンバーがいろんなストレスを抱えながらも頑張ってくれたお陰です。

本年報を見直して1年を振り返ると、医療福祉支援センターの1人1人に対して感謝の気持ちが沸いてきます。 私にとっては、これはそんな年報です。

2 地域連携室

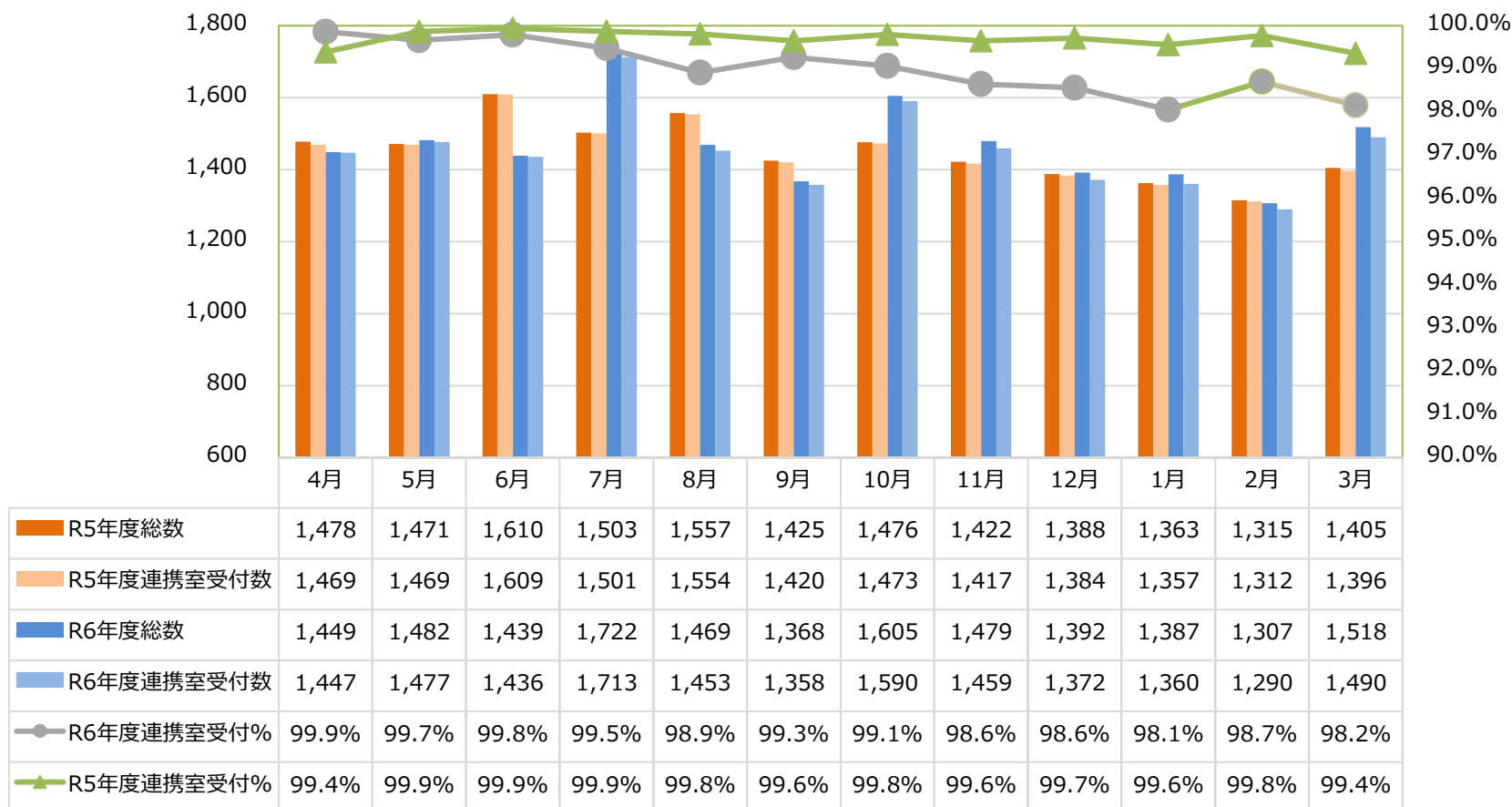


2

地域連携室

1 初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数

令和6年度の初診紹介患者数は年間総数17,617件で、令和5年度の17,413件から204件増加した。紹介患者のうち地域連携室での事前受付患者は年間総数17,445件と令和5年度の17,361件から84件増加した。地域連携室での事前受付比率は年度平均99.0%となり、令和5年度の99.7%から0.7%減少した。

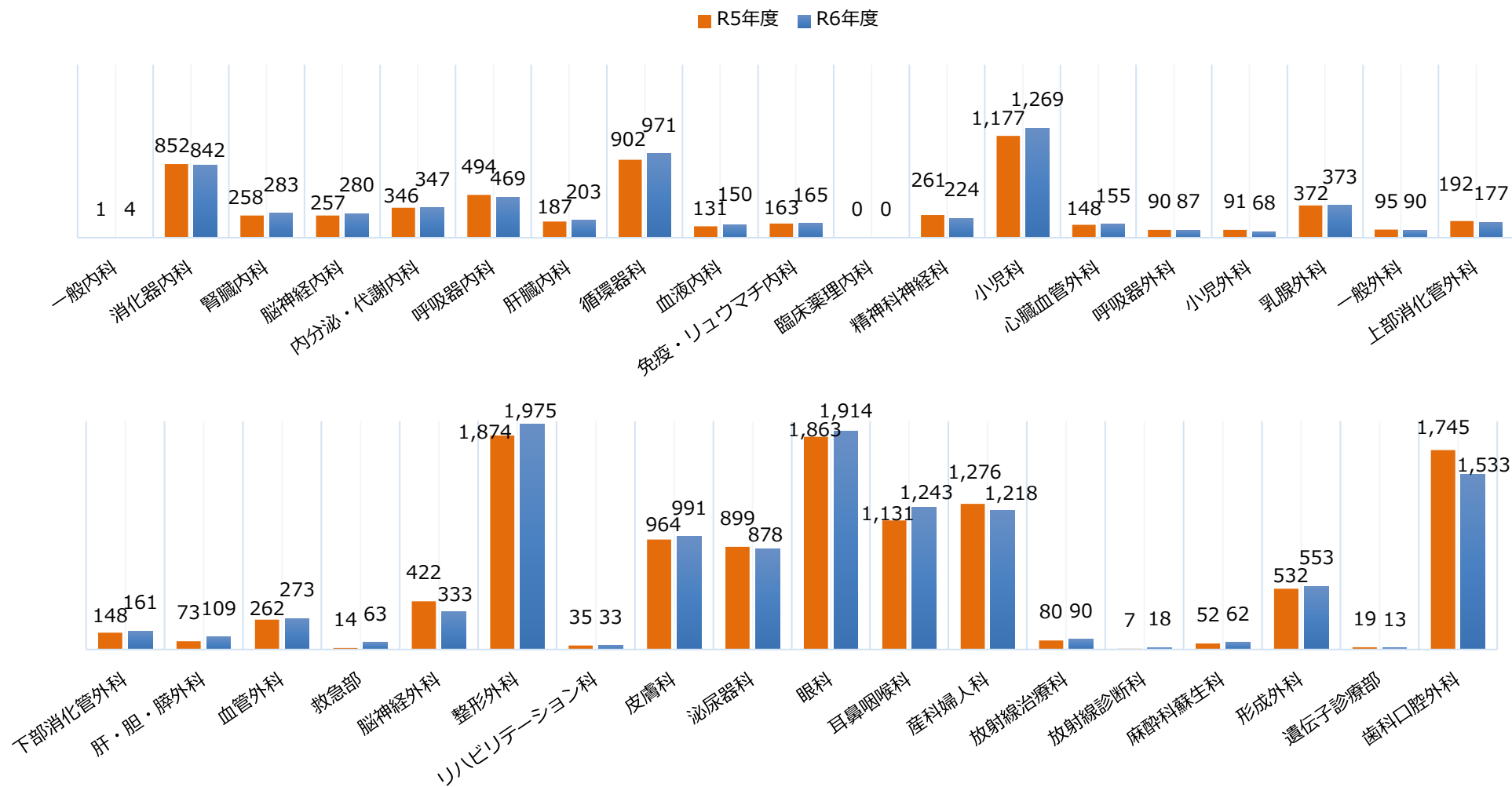


2

地域連携室

2 診療科別紹介患者件数

令和5年度と比較して件数の変化が目立つ診療科としては、歯科口腔外科が212件減少、耳鼻咽喉科が112件、整形外科が101件増加した。



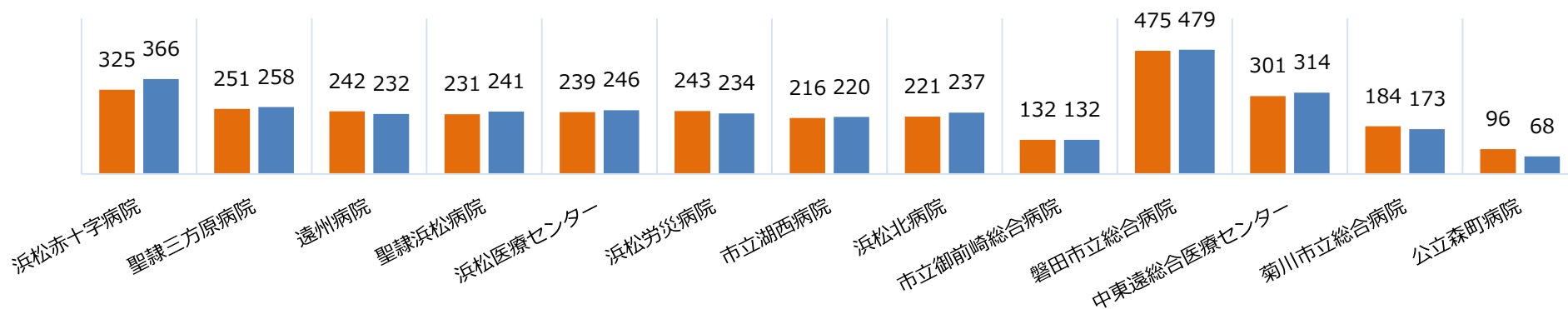
2

地域連携室

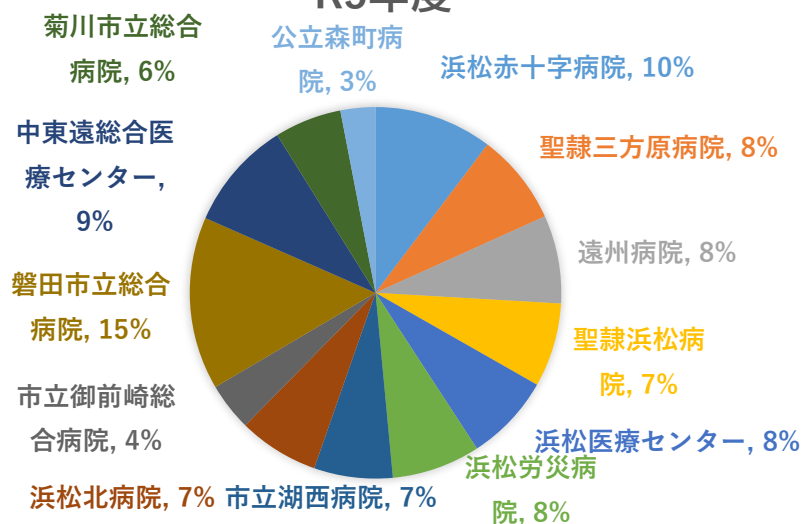
3 近隣医療機関からの紹介患者数の比較

令和6年度に近隣医療機関から紹介された患者総数は3,200件で、令和5年度の3,156件から44件増加した。割合で見ると、令和5年度とほぼ変わりはない。

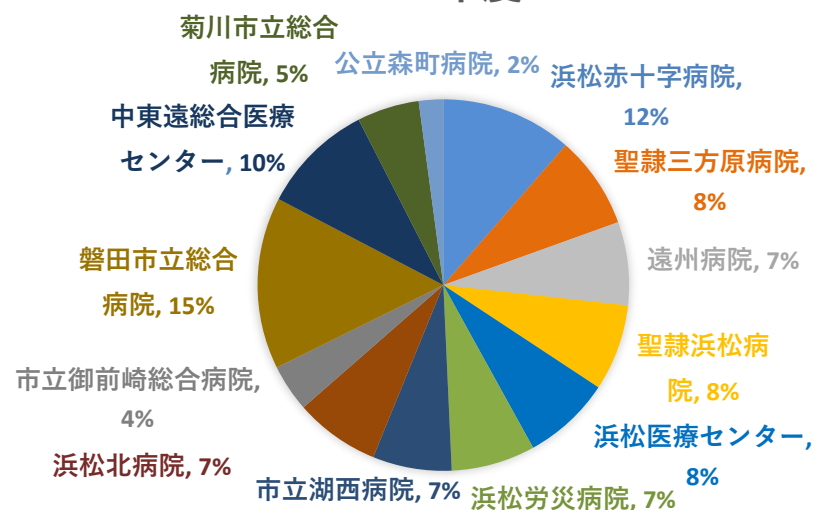
■ R5年度 ■ R6年度



R5年度



R6年度



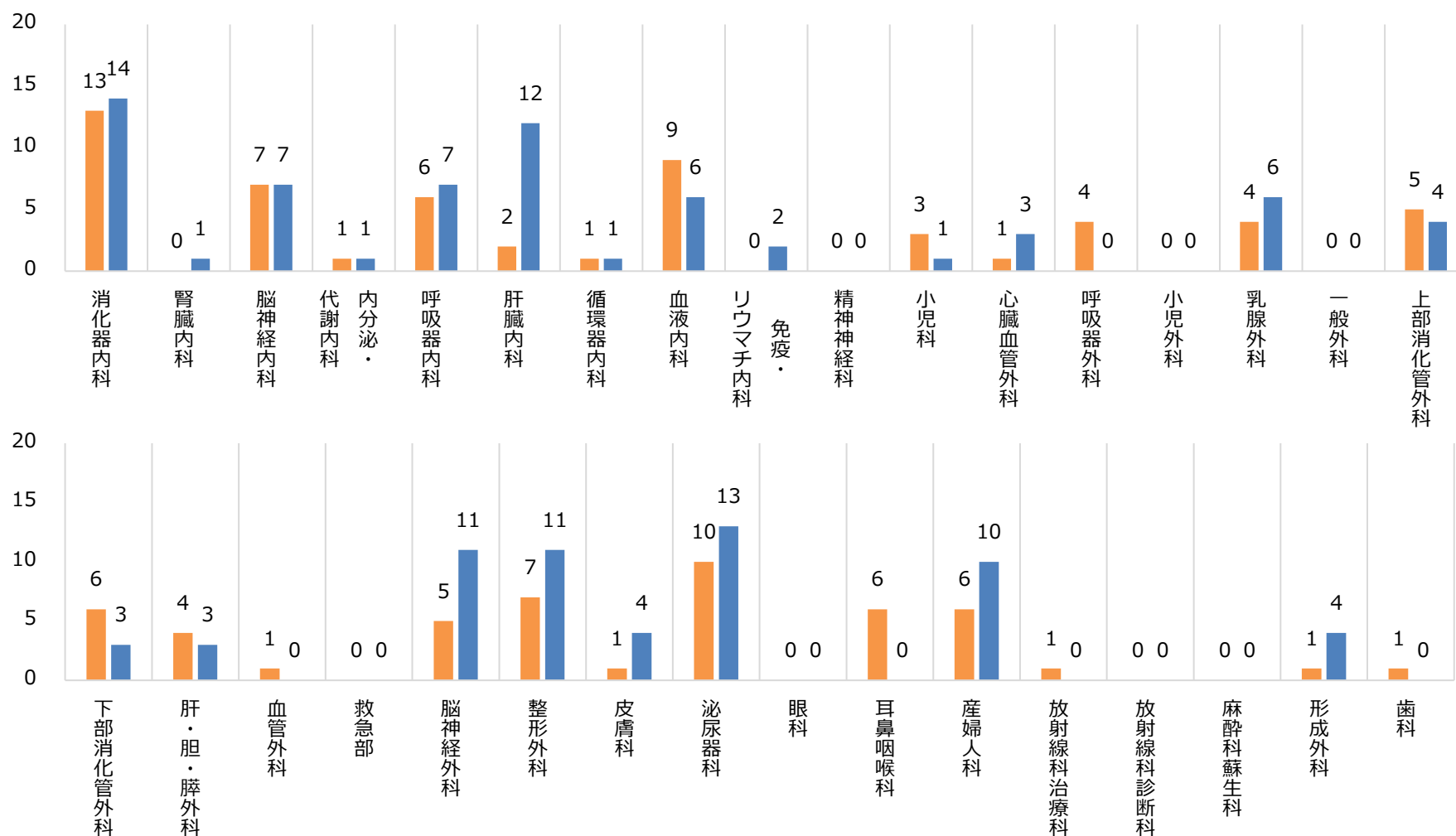
2

地域連携室

4 セカンドオピニオンの実績件数

令和6年度のセカンドオピニオン外来の実績件数は124件で、令和5年度の105件から19件増加した。

■ R5年度 ■ R6年度



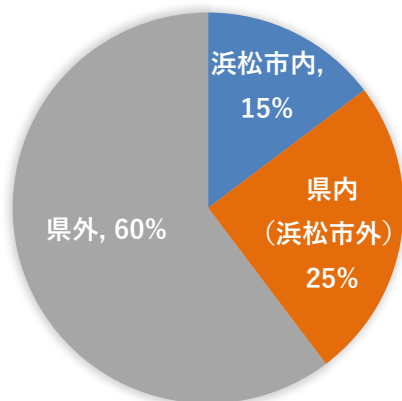
2

地域連携室

5 セカンドオピニオン依頼件数

令和6年度のセカンドオピニオン依頼件数は68件で、令和5年度の68件から同伴。
 静岡県内の医療機関への依頼件数は27件で全体の40%、県外への依頼件数は41件で60%である。

【依頼先医療機関】

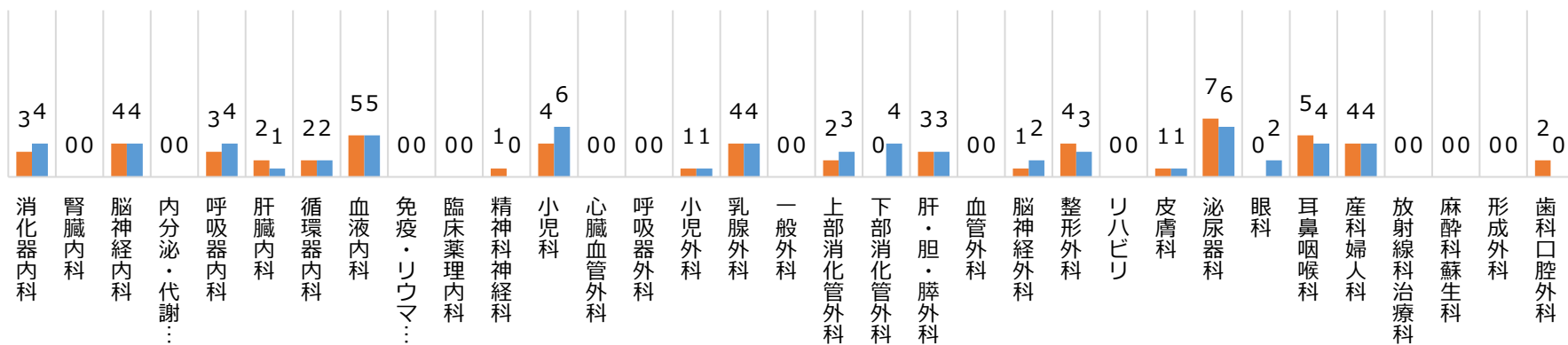


静岡県立静岡がんセンター
国立がん研究センター 中央病院
がん研究会有明病院
聖隷浜松病院
浜松医療センター
愛知県がんセンター
京都大学医学部附属病院
名古屋大学医学部附属病院
大阪大学医学部附属病院
成田記念病院
聖隷三方原病院
大阪母子医療センター
国立精神・神経医療研究センター病院
シティークリニック

福島県立医科大学附属病院
東京血液疾患診療所
名古屋市立大学病院
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
東北労災病院
静岡県立静岡がんセンター 医療連携室
T O K Y O免疫統合医療クリニック
国立成育医療研究センター
成田記念陽子線センター
銀座エルディアクリニック
東京大学医科学研究所附属病院
井土ヶ谷脳神経外科・内科・頭痛・めまい・しびれクリニック
森野クリニック
愛知医科大学病院

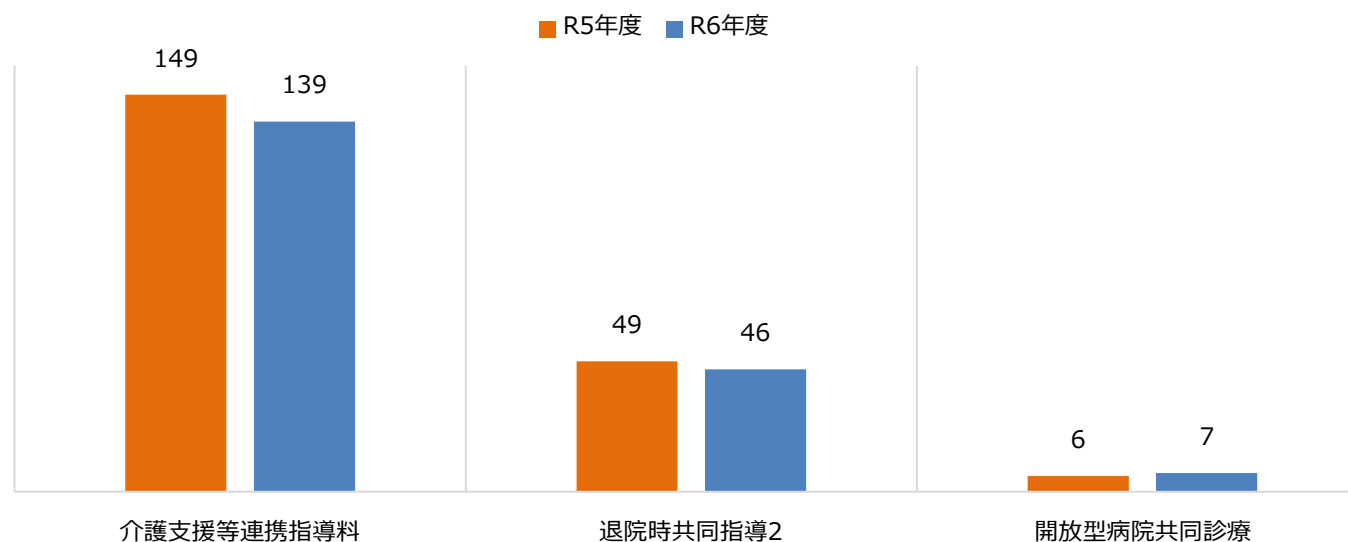
昭和大学横浜市北部病院
大阪急性期・総合医療センター
順天堂大学医学部附属順天堂医院
神原記念病院
聖隷三方原病院 地域医療連携室
神奈川県立がんセンター
東京医科大学茨城医療センター
東京大学医学部附属病院
横浜市立大学附属病院
さつきの森クリニック
浜松市リハビリテーション病院
中東遠総合医療センター
東京逋信病院
静岡県立総合病院

R5年度 R6年度



6 介護支援連携指導・退院時共同指導2・開放型病院共同診療実績

令和5年度と比較して介護支援等連携指導料の算定件数は10件減少、退院時共同指導料2は3件減少、開放型病院共同診療は1件増加した。



【令和7年度目標】

- ・新規患者の獲得
- ・紹介元への返書管理、返書率向上
- ・医療DXの推進



3 医療・福祉部門

- 1) 医療福祉の相談
- 2) 入退院・在宅療養支援

1 相談支援件数の推移

●新規相談件数は前年より232件増え4,484件だった。令和5年度の途中から入退院支援加算1の算定に伴い病棟に退院支援専従職員が配置されたことにより、支援が必要なケースに介入できていることが数字で証明された。これに伴い加算数も増え増収となっている。

新規相談件数の内訳としては、例年通り入院患者の転院支援や在宅支援を中心、制度の紹介や医療費の相談といったことの件数が増えている(表2)。上記理由での入院患者の拾い上げによる相談件数の増加とともに、外来患者の相談件数も増加をしていた。老々介護、一人暮らしの高齢者、キーパーソンがいないなど、家族スタイルの変化により対応が困難なケースが増えており、退院や転院、在宅支援に難渋するケースが増えている。急性期病院において社会的な背景での入院長期化は避けなくてはならない問題だが、生活保護が受けられない程度の収入で身寄りがない場合、本人の判断能力だけでは受け入れをする施設が見つからない現状がある。行政も含めた検討が必要に感じる。

表1 年度別新規相談件数(件)

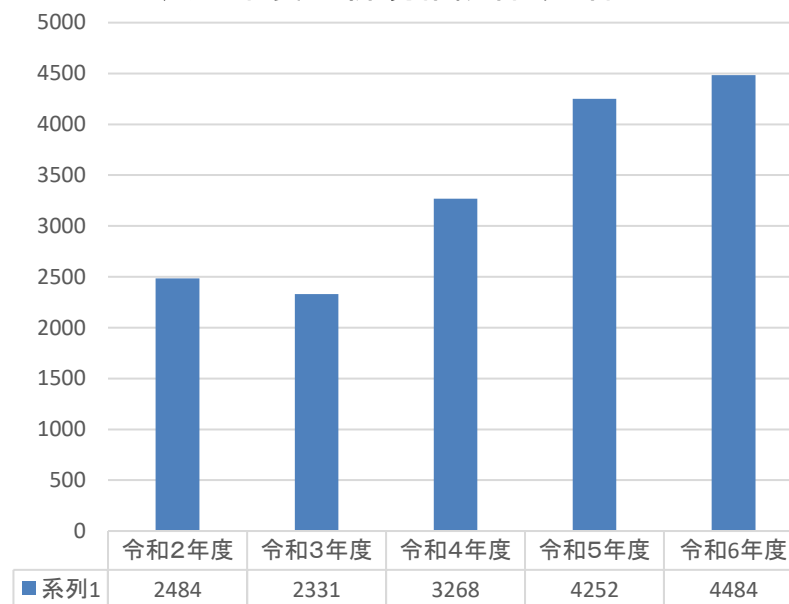


表2 主な相談件数(件)

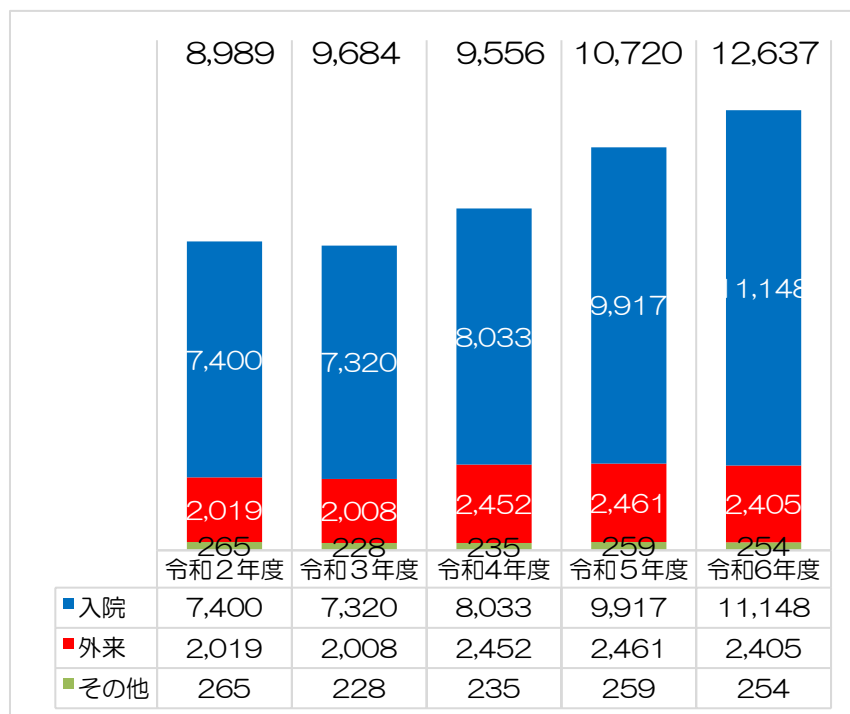
	令和5年度	令和6年度	増減
退院支援	1031	1211	180
在宅支援(入院患者)	360	575	215
制度の紹介	367	488	121
医療費の相談	307	362	55
福祉介護の相談	131	190	59
医療処置に関して	110	92	△ 18
当院の受診について	96	162	66
在宅ケア調整(通院患者)	94	108	14
診療所・他院へ連携(外来患者)	85	132	47
生活費の相談	75	88	13

3-1

医療・福祉部門 医療福祉の相談

●対応した回数は、13,807回で前年度より1,168回増加した(表3)。主な相談回数としては、入院患者の転院支援に7,018回、入院患者の在宅支援に2,841回関わっていた。転院には1件につき5,1回、在宅支には1件につき4,3回関わっていたことになる。先に挙げた身寄りのない方などの支援で自宅に帰れずに他施設への調整で難渋するケースが増えていることに関わっているのかもしれない。

表3 年度別対応回数(回)



●令和5年3月より転院の相談をクラウド上でやり取りするケアブックの導入を行った。令和6年度利用件数773件、延べ1,243機関への打診を行った。チャットのやりとりは6,586回、電話時間が削減でき、やりとりの漏れもなくなったため業務の効率化が図られた。

■令和3年度より患者からの要望もありヘルプマークの配布を行っている。

令和4年度 422個配布

令和5年度 339個配布

令和6年度 391個配布

◆配布者は女性64%、男性35%。

◆身体障害者等の手帳保持者42%

◆年齢別配布割合 ～10歳 5%

10代 6%

20代4%

30代5%

40代11%

50代24%

60代20%

70代24%

80代以上1%



2 虐待対応

【高齢者・障害者・DV虐待防止委員会】

令和5年度より予てから要望のあった『高齢者・障害者・DV虐待防止委員会』を設置した。医事課が主体として立ち上げを行い参加メンバーとしては主要診療科の医師、コメディカルに依頼し、委員長は医療福祉支援センター長が行うこととなった。第1回臨時委員会を令和5年11月29日に開催し、その後16件の相談を受け(高齢者虐待:9件、障害者虐待:3件、DV:4件)、そのうち臨時委員会を7回開催した。虐待種別としては、身体的虐待が9件と最も多く、次いでネグレクト疑いが3件。定例委員会は、今後1月・5月・9月に開催予定。外部の有識者の意見を参考にしたり地域連携の観点から、浜松市の長寿支援課にも参加を打診していく。まだまだ未熟な会のため、メンバーそれぞれのスキルアップが課題。

【児童虐待対応委員会】

令和6年度は虐待を疑うケースを発見し臨時委員会が開催されたのは4回。不適切な養育が疑われる家庭の相談件数と合わせて64件について委員会で検討を行った。相談者は例年通り小児科、産科、精神科の医師や看護師が大半を占めているが、その他の診療科においても虐待の鑑別やその後の支援が適切に行えるよう児童虐待スクリーニングシートの作成に取り組んでいる。また院内全体の支援体制を確保するために職員を対象とした研修会を企画・開催し全2回、それぞれ100名ほどの職員が参加した。次年度は委員会名称を子育て支援対策委員会に改め子どもたちや家庭への支援に取り組んでいく。

3-1

医療・福祉部門 医療福祉の相談

3 障害年金相談会

社会保険労務士が当院にきて相談に対応する、障害年金相談会を年4回開催し、14名が参加をしました。毎年開催している会のため院内での認知度が少しずつ上がり、外来や病棟の看護師から連絡があり対応するケースもありました。専門家と協力して行う貴重な会であり、有効な情報提供ができるので、来年度以降も継続していきたいと思います。

〔開催日〕

令和6年4月10日	6名
令和6年7月10日	5名
令和6年10月10日	1名
令和7年1月10日	2名
	14名

障害年金 相談会

相談無料

病気や事故などで日常生活が不自由になったり働くことが制限されたとき、障害基準を満たしていれば障害年金がもらえます。

年金制度のしくみとは？

受給額の計算方法

障害年金の基準は？

日程 07月10日（月） 事前予約枠～4名
当日受付開始～12:30
当日受付終了～16:30
※後日の参加希望者は申し込みません。

時間 13:00～17:00

場所 浜松医科大学病院
外家棟1階 医療福祉支援センター

担当 静岡県社会保険労務士会所属
年金相談員

お問い合わせ
医療福祉支援センター

TEL 053-435-2772
FAX 053-435-1700

3 医療・福祉部門

- 1) 医療福祉の相談
- 2) 入退院・在宅療養支援

3-2

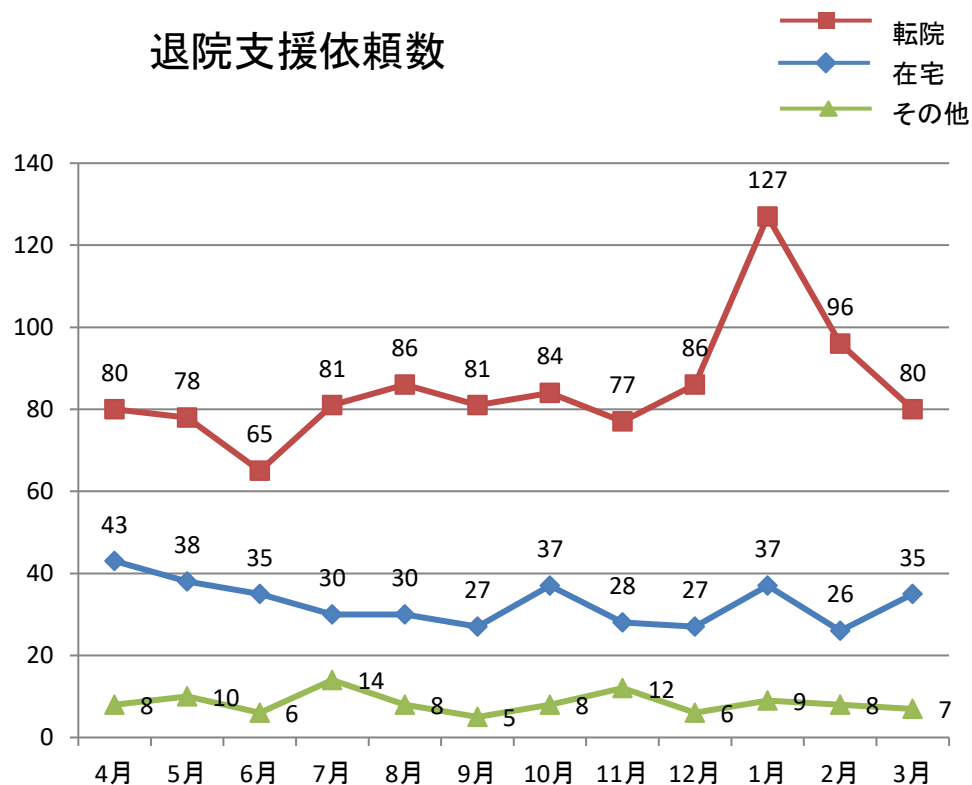
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

1 退院支援依頼と実績

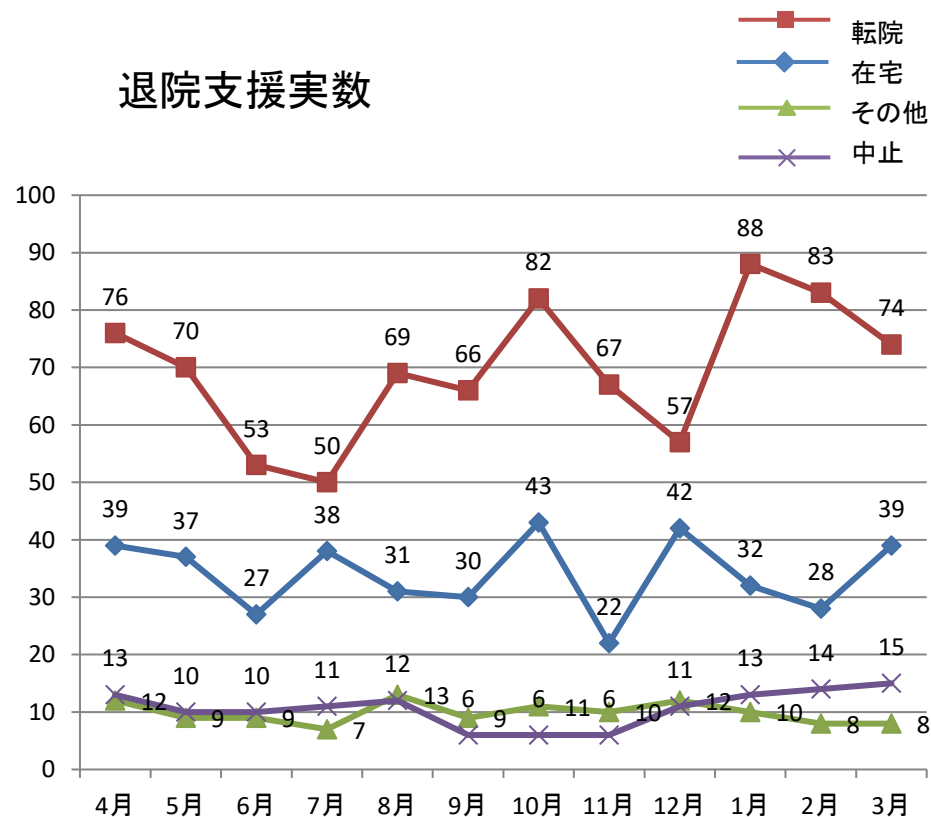
令和6年度の退院支援依頼数は1515件で前年度より103件増加した。今年度は毎月100件以上の依頼があった。4月より全病棟に退院支援病棟専従者を配置したため退院支援が必要な患者が抽出され、依頼数も増加したと考えられる。1月は感染症の流行により、入院患者数も多く病床もひっ迫した状況が続いたため、転院の調整数が例年を大きく上回った。

退院支援実績は、在宅調整408件、転院調整835件、その他調整118件であった。この割合は在宅の調整数が約3割と増加してきており転院の調整数が減少してきている傾向にある。

退院支援依頼数



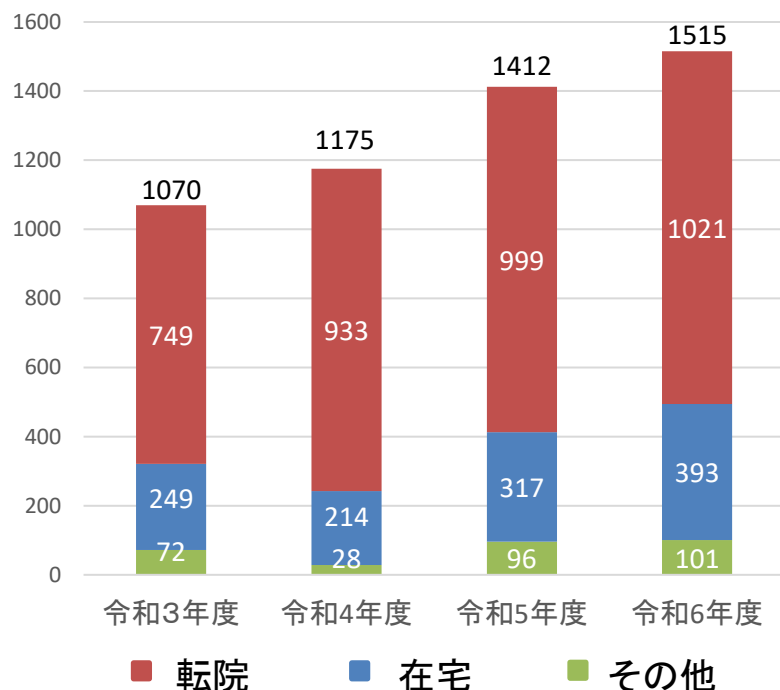
退院支援実数



3-2

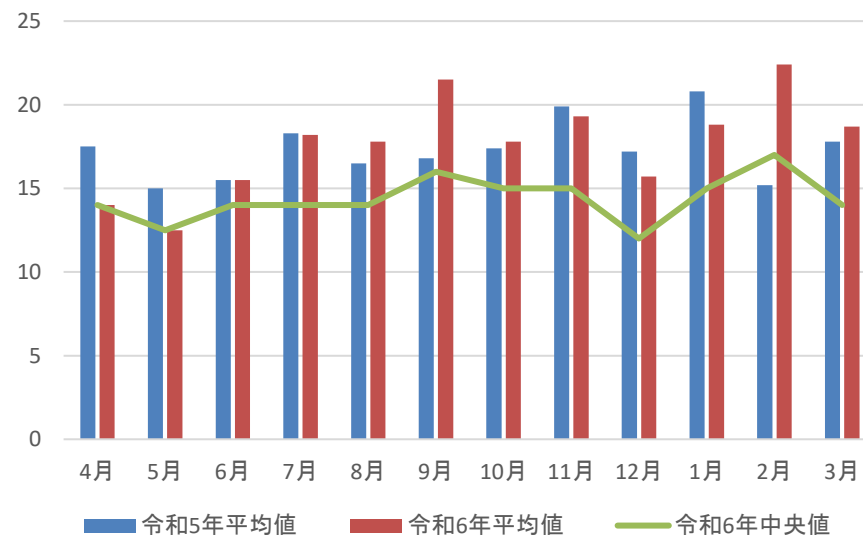
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

2 退院支援依頼件数の年次推移



退院支援件数は年々増加しており、今年度は過去最高の依頼数となった。在宅調整の件数も増加傾向にある。退院支援病棟専従者の配置や7つの病棟の週1回の退院支援カンファレンスに訪問看護師、ケアマネジャーが参加され、多職種でカンファレンスを実施できているため、きめ細かい在宅への支援が出来るようになった。

3 退院調整日数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和5年平均值	17.5	15	15.5	18.3	16.5	16.8	17.4	19.9	17.2	20.8	15.2	17.8
令和6年平均值	14	12.5	15.5	18.2	17.8	21.5	17.8	19.3	15.7	18.8	22.4	18.7
令和6年中央値	14	12.5	14	14	14	16	15	15	12	15	17	14

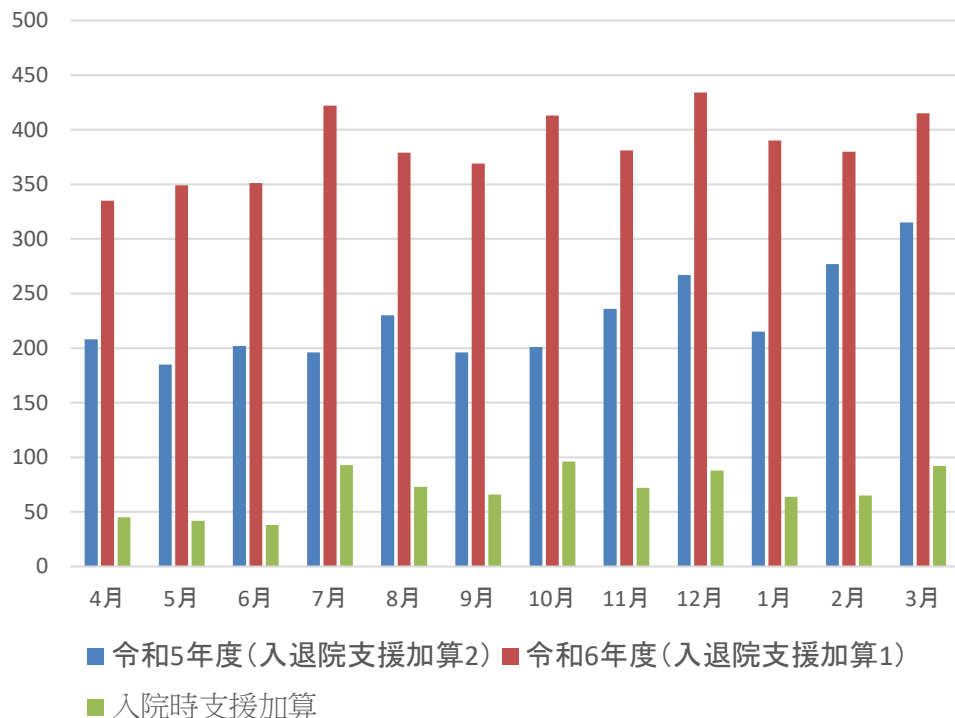
退院支援依頼を受けて介入を開始してから退院までに要した日数を「退院調整日数」と定義する。

今年度の平均調整日数は17.6日、中央値は14日であった。当院の在院日数が10.4日と短縮している。社会的背景が複雑な患者が増加しているため、早期に入退院支援の介入をしていく必要がある。

3-2

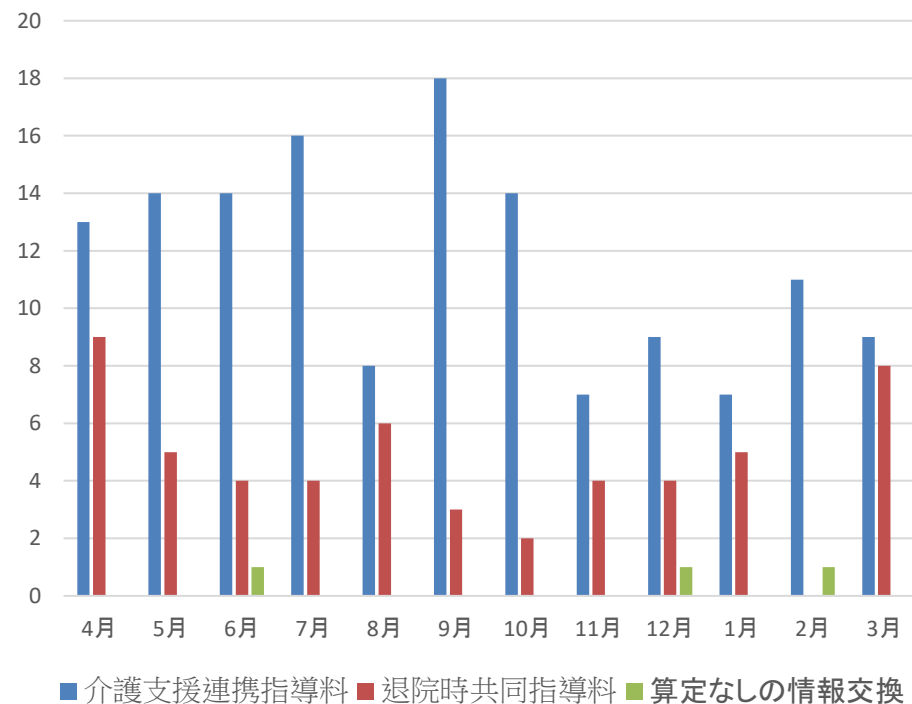
医療・福祉部門 入退院・在宅療養支援

4 入退院支援加算1算定数件数



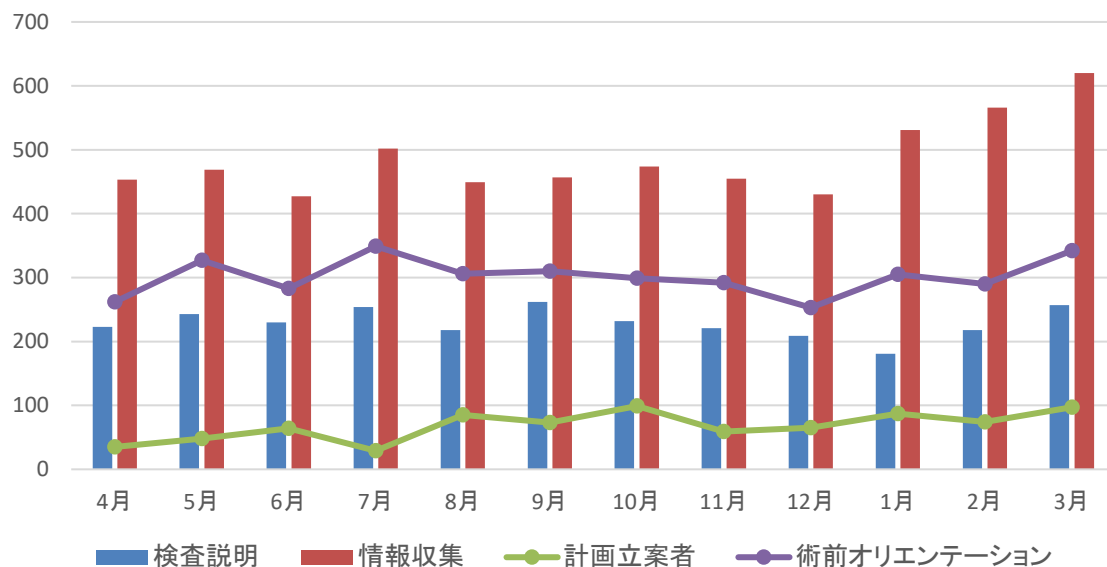
4月より入退院支援加算1の算定を開始し、算定数は4267件であった。退院支援病棟専従者を配置したことで、算定漏れが少なくなり、算定数は昨年度を1500件程度上回った。入院時支援加算2の算定数も796件と昨年度より388件増加した。

5 院外・地域との情報交換や訪問



介護支援等連携指導料や退院時共同指導料の算定数は昨年度と比べ減少した。地域との連携を強化し、シームレスな入退院支援に繋げるために積極的に地域とのカンファレンスを実施していきたい。

6 メディカル・サポートエリア実績



【令和7年度目標】

院内外の連携を強化し、患者にとって必要なサポートを提供するとともに、地域の医療機関や福祉サービスとの連携を深化させる。

入院前の看護面談は、予約制を推進し5839件と昨年を大きく上回った。今年度は、メディカルサポートエリアにて栄養嚥下スクリーニングを行い、栄養状態や嚥下状態についての聞き取りを開始した。入院前から多分野の専門職が連携して患者さんを支援できる体制を整えている。

4 がん相談支援センター



4 がん相談支援センター

今年度がん相談に当たった回数は、3,938回(うち成人は3,685回、小児は253回)。内訳として当院の患者さんから多く相談いただいた(表1)。その内初めて利用した方の相談回数は年間1,047回(小児・成人あわせて)。今年度がん相談の約2割が初めて相談に来る方であった(表2)。

昨年度と比較し相談回数は増加したが、初めて相談に来た方の相談回数の割合は同じである。今後もがんと診断された方へ相談窓口の普及啓発を行い、なんでも相談窓口や外来等の院内の部署と連携し、相談につながるよう活動していく。

表1 受診方法別相談回数 前年度比較(回)

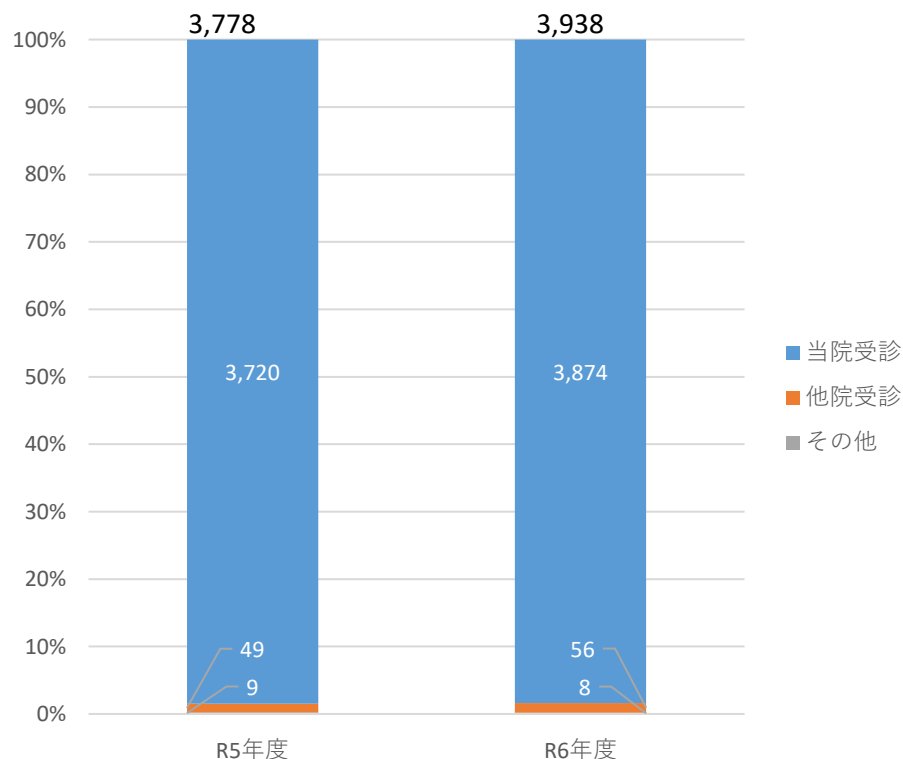
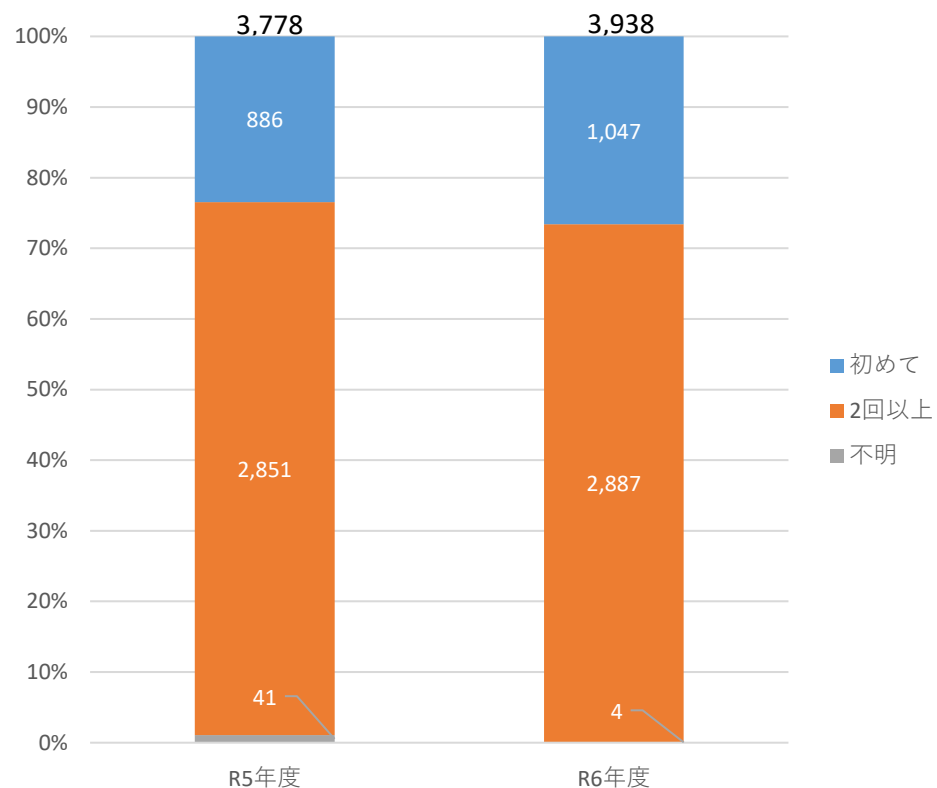


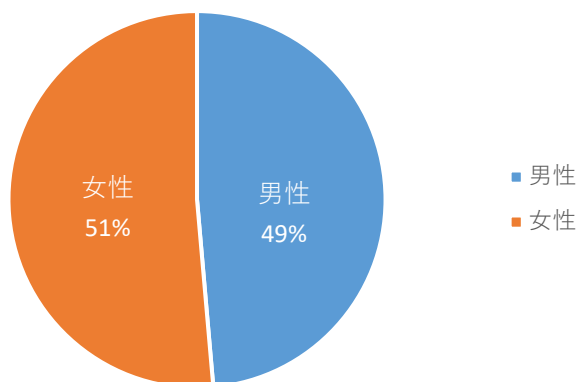
表2 利用回数 前年度比較(回)



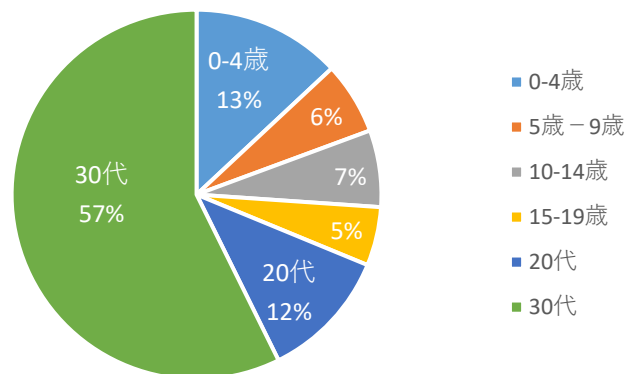
4 がん相談支援センター

【表3 男女・年齢別相談回数(回)】

令和6年度 患者性別(小児)



R6年度 患者年齢(小児)



【表4 年間 相談内容 トップ10(回)】

1 在宅医療	88
2 医療費・生活費・社会保障制度	79
3 転院	13
4 薬物療法	6
4 不安・精神的苦痛	6
5 ホスピス・緩和ケア	5
5 きょうだいに関すること	5
6 アピアランス	3
8 医療者との関係・コミュニケーション	3
9 その他	33

小児の基準は介護保険の対象とならない40歳未満としている。

男女別では女性、年齢別では30代の方についての相談が多くなっている(表3)。

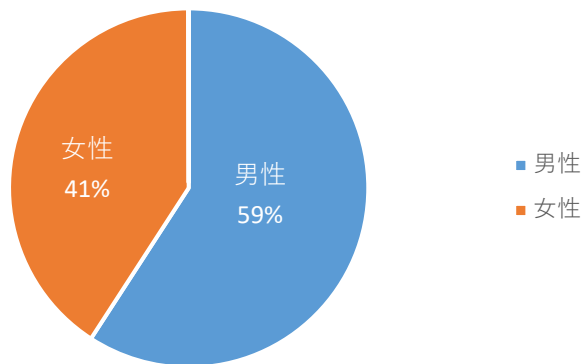
相談内容は昨年度と変わらず「在宅医療」「医療費・生活費・社会保障制度」「転院」の順で多くなっている(表4)。

入院中の患者さんへの支援がほとんどで、退院調整や小児慢性医療費助成制度をはじめとする福祉制度のご案内が多い。

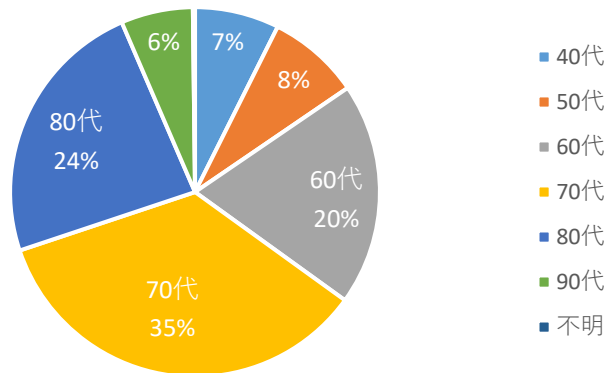
4 がん相談支援センター

【表5 男女・年齢別相談回数(回)】

R6年度 患者性別(成人)



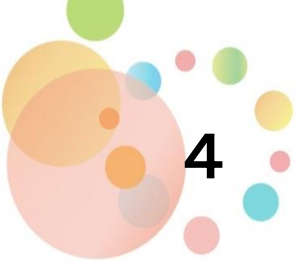
R6年度 患者年齢(成年)



【表6 年間 相談内容 トップ10(回)】

1 在宅医療	1,239
2 転院	1,155
3 ホスピス・緩和ケア	291
4 療養	238
5 医療費・生活費・社会保障制度	157
6 介護	75
7 介護保険	54
8 医療機関の紹介	36
8 薬物療法	36
9 その他	216

男女別では男性、年齢別では70代の方への相談が多くなっている(表5)。
 相談内容では「在宅医療」「転院」、「ホスピス・緩和ケア」の順で多くなっている(表6)。
 入院中の方への在宅・転院調整の相談、そこに伴う医療費等社会保障制度に関する相談が多い印象。外来の患者さんでも医療費が高額になる方も多く、今後も積極的に支援を続けていく。



4 がん相談支援センター

乳がん患者会スノードロップ

今年度の参加者総数は64名。うち新規申し込み者は12名だった。昨年度に引き続き感染対策のため検温や体調チェックシートの記入などを実施。前半で下記学習会、後半はフリートークとした。世話人が2人1組で当番回を担当して開催内容を検討しており、来年度も継続予定。今後は参加対象者の拡大と併せて会則の変更も検討していく。

令和6年 4月24日(水) 『春の“トトノエ”ヨガ』

講師: 牧野あずみ 氏

7月24日(水) 『緩和ケアって何? ~浜松医大の緩和ケア~』

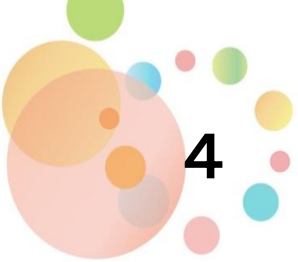
講師: 当院 緩和ケアセンター 乳がん看護認定看護師
箕浦侑加 氏

10月23日(水) 『乳がんのトピック・最新情報&医師への質問タイム』

講師: 当院 乳腺外科 小泉圭 医師

令和7年 1月22日(水) 『自分のからだのために、食事のできることに』

講師: 当院 栄養部 主任管理栄養士 位田文香 氏



4 がん相談支援センター

就労支援

がん患者さんの新規就労や就労継続の相談窓口として相談を受けている。今年度は併せて23回相談があった。ハローワーク職員や、静岡県産業保健総合支援センターの治療と仕事の両立支援についての専門家である両立支援専門員と連携している。患者さんの希望にあわせて各機関を紹介し、当院で初回面談も実施している。

若くしてがんにかかる方も多く、治療をしながら仕事をしなければならない方は多くいらっしゃる。経済的な理由だけでなく、やりがいといった面でも治療と仕事の両立はとても重要である。

浜松市がん診療連携拠点4病院実務者ミーティング

がん患者の就労促進、情報共有を目的に、基本毎月浜松市の担当者と市内のがん診療連携拠点4病院の相談実務者が集まり、ミーティングを行っている。

10月は「浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会」を開催。行政、患者会、医療機関などが参加した。今回のトピックとして、がんネットワークシニアナビゲーター吉田医師から役割等をご講演いただいた。

11月は静岡県労働局と協力し、がん患者の治療と就労の両立支援セミナーを開催。両立支援に詳しいキャリアコンサルタントを招きご講演いただいた。医療従事者を中心に、企業、行政、一般市民などの参加があった。

1月には市内や近隣市町村でがん診療を実施している医療機関を対象に、「アピアランスケアに関する医療従事者向け講演会」を開催。補正下着について企業から説明があり、看護師を中心に参加があった。乳がんに特化した専門的な分野であったが、例年通りの参加人数だった。

治療と仕事の両立支援を行うためには、企業の理解と病院など関連機関の協力が必要になる。今後も講演会等を通じた普及啓発を行い、両立支援により一層力を入れていく方針である。

R6.10.22(火) 浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会(ハイブリッド開催)

R6.11.13(水) 浜松市がん患者就労支援講演会(WEB開催)

R7.1.29(水) アピアランスケアに関する医療従事者向け講演会(WEB開催)

4 難病医療相談室





05 難病医療相談支援室

令和6年度 難病医療相談支援室目標

- 1 難病従事者研修会を5 回開催させる
- 2 人工呼吸器装着患者の自宅退院支援マニュアルを作成する
- 3 難病患者の災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練を院内に浸透させる

目標の背景

- 1 令和1年度までは対面での研修会を年1回開催していたが、コロナ禍の令和2年度からオンライン研修に切り替えた。当初は慣れないこともあり年2回の開催に留まっていたが、医事課の協力も得てアップロードが簡易にできるようになり軌道に乗ってきた。受講者へのアンケートでは大多数がオンライン研修を希望しており視聴回数も伸びているため、ニーズに対応した研修会を継続していくことが重要だと考える。
- 2 侵襲的人工呼吸器を装着して自宅退院するケースは少ないため、ほとんどの病棟看護師は未経験である。そのため患者・家族に対し、どのような指導や援助が必要なのか知識や情報が乏しく、不安やプレッシャーが強い。退院までの全体的な流れや役割分担を視覚化し情報共有することで退院支援がスムーズに実施できれば患者・家族にも有益だと考える。
- 3 難病災害連絡協議会のグループワークでは、災害時在宅人工呼吸器患者受け入れ訓練が院内の防災訓練とリンクしていないことが問題点としてあげられた。当院も同様であるため、まずは受け入れ訓練の実施状況を院内にどのように報告していくのか検討してみる。



05 難病医療相談支援室

令和6年度 難病医療相談支援室目標



評価・反省

- 1 予定通り難病従事者研修会を5回開催することができた。再生回数は講演会により多少ばらつきがあるが、平均して302回であった。受講者アンケートで「難しかった」「わかりにくかった」といった意見があるものは再生回数が少なかった。受講者の内訳としては看護師が6割りと最も多く、略語は避けるなど今後の研修内容のレベルを検討していく必要がある。
また、本年度は研修案内用のメーリングリストを修正し、新設された訪問看護ステーションも参加可能となった。研修後の質疑応答は病院ホームページに掲載し、難病ニュースレターを通して周知をはかった。
- 2 これまでの在宅支援方法をまとめて、人工呼吸器装着患者の自宅退院チェックリストを完成させることができた。
在宅療養に必要な連携機関や助成制度、家族指導、必要物品がリスト化されていることで、初めての支援担当者でも適切な準備、指導ができると思われる。今後は定期的に内容を見直して常にアップデートしていく必要がある。
- 3 災害時在宅人工呼吸器患者の受け入れ訓練は例年通りに行っており、協力病院にはメールやニュースレターで結果を報告している。ニュースレターは当院のホームページで閲覧できるが、院内職員がどれだけ見ているか分からない。本年度から、在宅で人工呼吸器や吸引器を使用中の神経難病患者へ災害対策のパンフレットを配布した。今後も継続して 配布していく。
また、静岡県疾病対策課の依頼を受け、在宅人工呼吸器装着患者の災害時事前入院を試行した。



05 難病医療相談支援室

活動実績

【主催・共催】

難病医療従事者研修会 5回

災害時難病患者受け入れ訓練

災害時難病患者事前入院試行

静岡県難病患者災害連絡協議会

難病患者さんの為の就労相談会

難病ニュースレター発行 第32・33・34・35号

【参加】

事例検討会 静岡県難病情報交換会 6回

研修会

- ・日本神経学会災害対策
- ・自己免疫疾患・全身性強皮症
合同開催医療講演会
- ・パーキンソン病市民公開講座
- 他 心理系4つ

学会

- ・難病看護学会学術集会
- ・日本心理学会
- ・臨床心理学会

令和7年度 難病医療相談支援室目標

- 1 難病医療従事者研修会の再生回数を各回ともに300回以上をめざす
- 2 災害時マニュアルを見直す

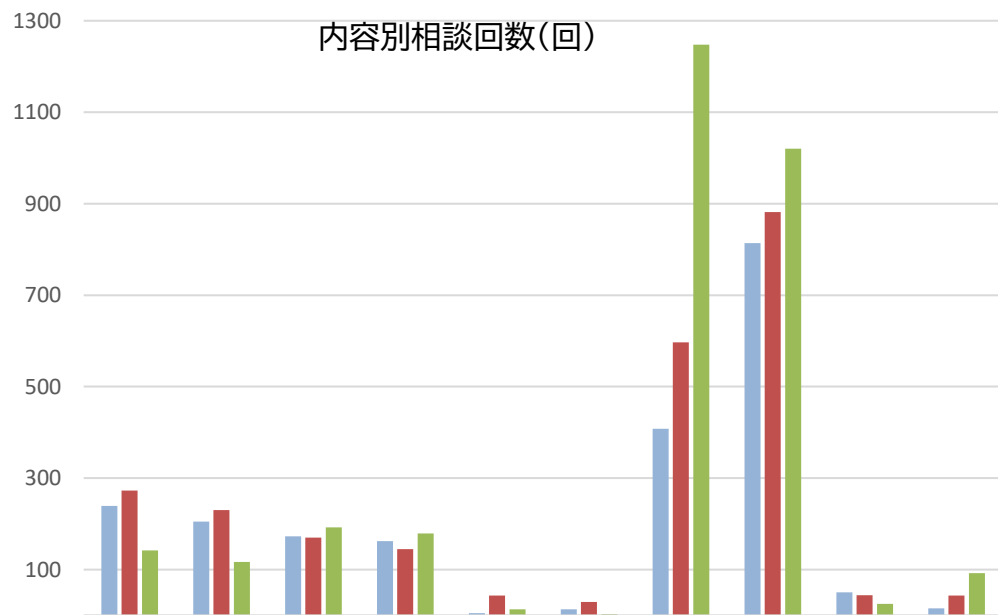
目標の背景

- 1 難病医療従事者研修会を定期的に行っていることで受講者の背景が掴めてきた。難易度が高過ぎても低過ぎても再生回数は伸びない。受講者の理解度とニーズに応じたテーマを講師に伝えることで再生回数の増加をはかる。
- 2 病棟再編成後で病室の人工空気や酸素の配管が変更されており、難病災害時マニュアルと実際の配管が異なっていることが分かった。難病患者の災害時事前入院の取り組みもあるため、マニュアルの見直し修正が必要である

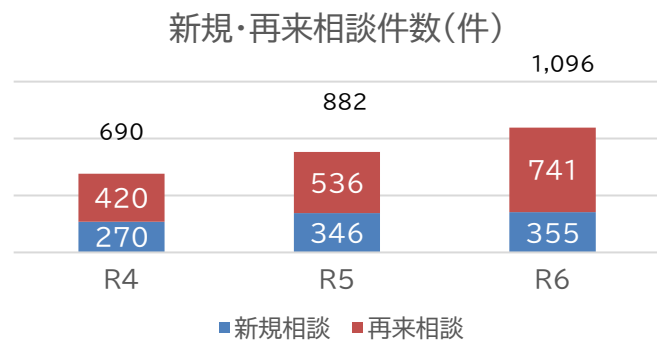
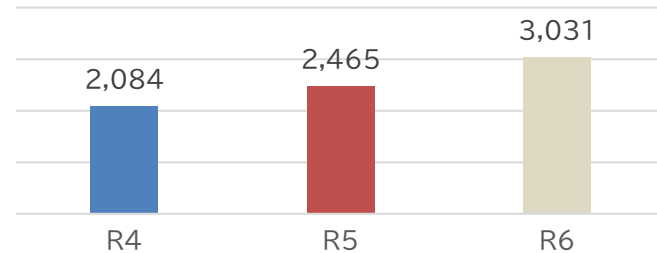
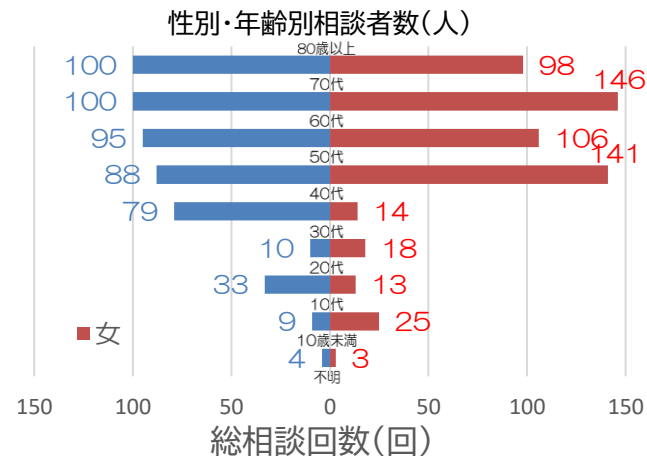


05 難病医療相談支援室

難病相談

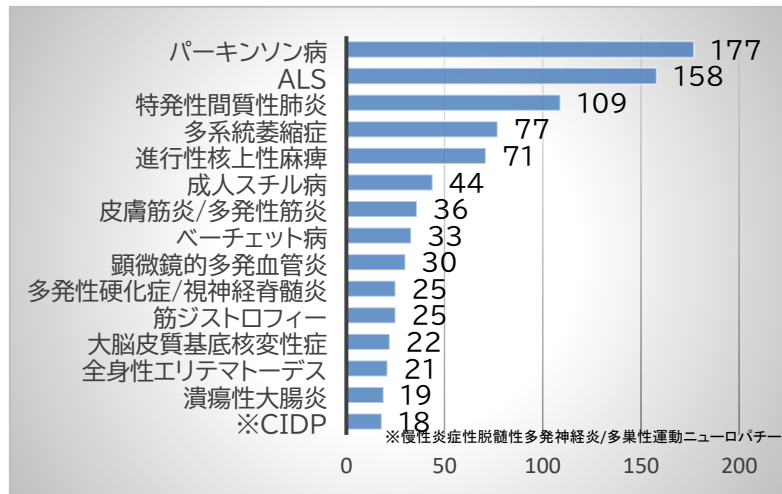


	病気・病状	治療・服薬	福祉制度	医療費・公費助成	精神的悩み	経済的悩み	転院支援	在宅支援	就労相談	その他
R4	239	205	173	162	5	13	408	814	50	15
R5	273	230	170	145	43	29	597	882	44	43
R6	142	117	192	179	13	3	1,248	1,020	25	92

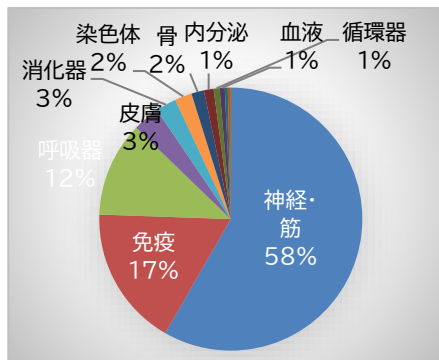


05 難病医療相談支援室

難病疾患(件)※上位15疾患



相談疾患群割合 (%)



少数相談疾患(疾患群別)

神経・筋	神経核内封入体病	皮膚	色素性乾皮症	骨	後縦靱帯骨化症
	脳表ヘモジデリン沈着症		全身性強皮症		特発性大腿骨頭壊死症
	脳内鉄沈着神経変性症		天疱瘡		黄色靱帯骨化症
	神経核内封入病		類天疱瘡	腎	IgA腎症
	脊髄小脳変性症		神経線維腫症		多発性嚢胞腎
	パーキンソン関連疾患	消化器	クローン病	視覚	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群
	脊髄性筋萎縮症		好酸球性消化管疾患		難聴
	重症筋無力症	循環器	拘束型心筋症	聴覚	歌舞伎症候群
	脳表ヘモジデリン沈着症		完全大血管転位症		染色体・遺伝子異常
	封入体筋炎	呼吸器	特発性拡張型心筋症	悪性腫瘍	オスラー病
	混合性結合組織病		肥大型心筋症		ヌーナン症候群
	封入体筋炎		サルコイドーシス		皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症
	シャルコー・マリー・トゥース病	内分泌	閉塞性細気管支炎	その他	びまん性大細胞型B型リンパ腫
	パーキンソン症候群		線毛機能不全症候群		下垂体腫瘍
	結節性硬化症		下垂体前葉機能低下症	不明	摂食障害
免疫	大脳白質病変	代謝	橋本病		慢性疲労症候群
	特発性多中心性キャスルマン病		1型糖尿病	血液	
	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		クッシング病		
	シェーグレン症候群	血液	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		
	結節性多発動脈炎		ミトコンドリア病		
	好酸球性副鼻腔炎		ライソゾーム病		
	家族性地中海熱		ダイヤモンドブラックファン貧血		
	若年性関節リウマチ		原発性免疫不全症候群		
	若年性特発性関節炎		特発性血小板減少性紫斑病		
			ダイヤモンド・ブラックファン貧血		

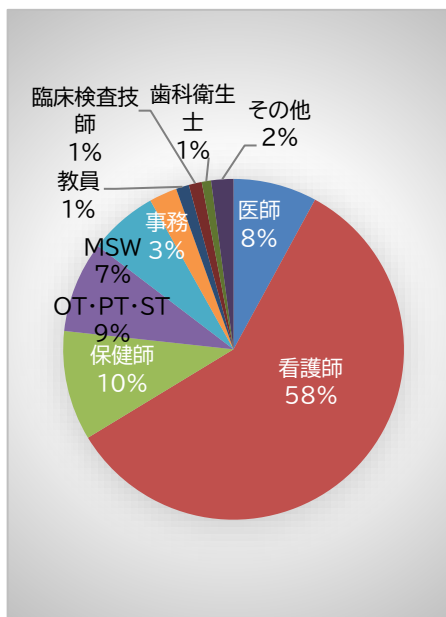
05 難病医療相談支援室

難病医療従事者講習会

浜松医科大学地域連携WEBセミナーYouTubeチャンネルにて限定配信 

	開催日時 (配信期間)	内容	講師	参加人数 (人)	再生回数 (回)
第1回	R6.5.7～ R6.6.30	サルコイドーシス	浜松医科大学 臨床薬理講座 教授 乾 直輝 先生	112	303
第2回	R6.7.1～ R6.9.1	特発性間質性肺炎の病態生理と 支援の留意点	浜松医科大学医学部附属病院 呼吸器内科 榎本 紀之 先生	95	298
第3回	R6.9.2～ R6.10.31	在宅で使用する人工呼吸器に必要な 知識と留意点	浜松医科大学医学部附属病院 医療機器管理部 臨床工学技士 中村 元春 先生	155	400
第4回	R6.11.1～ R6.12.31	人工呼吸器管理を行う患者の看護 ～気管切開カニューレ管理 ・口腔ケア～	浜松医科大学医学部附属病院 看護部 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 鈴木 麻希子 先生	91	193
第5回	R7.1.6～ R7.3.7	呼吸器のリハビリテーション	浜松医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 理学療法士 武田 夏季 先生	114	314

【参加職種】



05 難病医療相談支援室

災害時難病患者受け入れ訓練

令和6年度静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)、地震対策オペレーション2025(大規模頭上訓練)に参加。

難病医療協力病院に対し、難病患者の受入可否の状況及び病院の被災状況について照会をメールで行い、疾病対策課に受入れ可能人数の回答結果を報告。

	回答施設	受入れ可能な入院人数	提供可能な電源の数
令和6年度静岡県総合防災訓練	27	87	135
地震対策オペレーション2025	29	71	100

災害時難病患者事前入院 試行

難病患者の災害時を想定した、在宅難病患者一時入院支援事業交付金を使用しての事前入院の試行を実施した。

令和7年2月11日(水)～2月12日(木)

ALS患者 1名(人工呼吸器装着)

静岡県難病患者災害連絡協議会

災能登半島地震及び豪雨災害での石川県における難病患者への支援について

講師 独立行政法人国立病院機構 医王病院
名誉院長 脳神経内科 駒井 清暢 先生

意見交換

- 1 各病院・保健所での防災訓練内容
- 2 防災訓練の改善点

平成27年度より、静岡県健康福祉部疾病対策課と共同開催。

出席者 県内の難病診療連携拠点病院及び難病診療連携協力病院の医師・看護師・MSW、防災担当や総務担当、保健所難病担当者





05 難病医療相談支援室

難病患者さんのための就労相談会

令和6年12月6日(金)開催

難病患者さんの為の
就労相談会

まずは相談
はじめの一歩

【お問合せ先】
浜松医科大学医学部附属病院
難病医療相談支援室
TEL: 053-435-2477
(平日 8:30 ~ 16:45)

日時: 令和6年12月6日(金)
13:30~16:30
予約制・お1人1時間程度
(当院受診中の患者さん対象)
場所: 浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター
(外来棟1階)

2017年より開催。
総相談人数 57人

開催日

第1回 2024年5月24日※

第2回 2024年6月21日

第3回 2024年9月27日※

第4回 2024年12月6日

※申し込み者キャンセル等で
なしの為、開催中止。

ニュースレター

第32号 R6.7

診療科調査について

第33号 R6.9

令和6年度静岡県総合防災訓練について

第34号 R7.2

地震対策オペレーション2025について

第35号 R7.3

難病患者災害連絡協議会について

第32号 2024年 9月 発行
難病医療相談支援室
浜松医科大学医学部附属病院
〒422-8512 浜松市中区本町山
1-20-1
TEL/FAX 053-435-2477

自費の紙、皆様いかがお過ごしでしょうか。

災害時難病患者受け入れ訓練について

難病診療拠点病院・難病診療分野別拠点病院・難病医療協力病院
におかれましては、令和6年8月22日(木)に行われた第35回
総合防災訓練の難病患者受け入れ可搬搬入へご協力ありがとうございました。
訓練状況は、以下の通りです。

<当日の訓練の状況>

8時 34分 難病診療分野別拠点病院へ訓練メールが送信
8時 45分 拠点病院から協力病院へ難病患者受け入れ可搬搬入開始
10時 00分 拠点病院から難病診療分野別拠点病院へ報告書提出
・協力病院から拠点病院への報告書 25
・人工呼吸器搬送受け入れ可搬搬入人数 40名
【入院】79人、【看護の介】131人
10時 30分以降の搬送を含め、本訓練全体では、拠点病院への搬送者 27名、
人工呼吸器搬送受け入れ可搬搬入人数【入院】83人、【看護の介】135人でした。

搬送先

搬送先	入院	看護の介
静岡	12	12
東京	4	10
大阪	4	10
名古屋	4	10
京都	4	10
福岡	4	10
札幌	4	10
仙台	4	10
新潟	4	10
長野	4	10
岐阜	4	10
愛知	4	10
三重	4	10
滋賀	4	10
奈良	4	10
和歌山	4	10
鳥取	4	10
徳島	4	10
高松	4	10
香川	4	10
岡山	4	10
広島	4	10
山口	4	10
福岡	4	10
佐賀	4	10
大分	4	10
熊本	4	10
鹿児島	4	10
沖縄	4	10

南海トラフ巨大地震は30年以内に70%~80%の確率で発生すると予測されて
います。災害時搬送に際しては、災害時搬送は災害への連絡を要します。

診療科調査

静岡県難病協力病院に、指定難病及び特定疾患の診療が可
能な診療科を調査し、静岡県のホームページに掲載。

6 肝疾患連携相談室



6

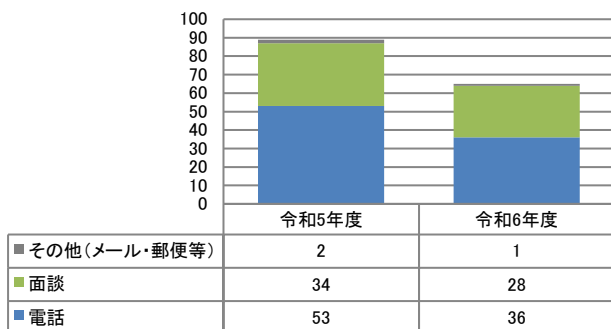
肝疾患連携相談室

静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業実施報告

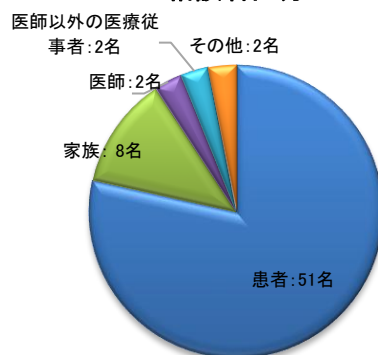
1 相談支援事業

2024年度の肝疾患連携相談室の相談件数は、年間65件(電話36件、面談28件、その他1件)であった。相談内容は、肝炎給付金の相談が29件と約半数をしめた。

相談件数の年次推移



相談者区分

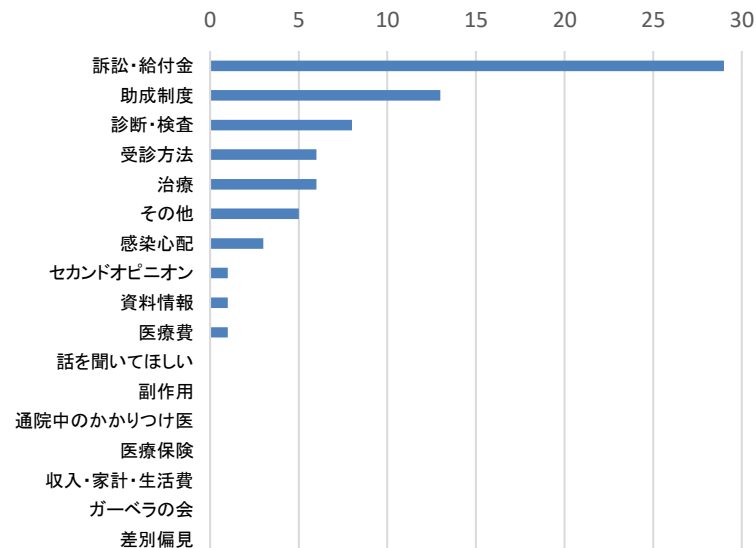


2 肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会

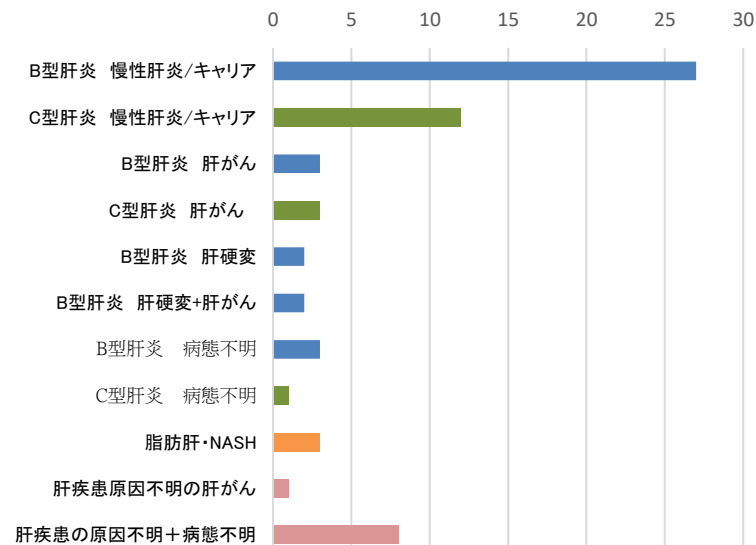
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会は、静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院と順天堂大学医学部附属静岡病院が1年毎の交代制となり、2024年度は当院が企画・運営し連絡協議会を開催した。

参加者:55名

2024年度 相談内容別件数



2024年度 疾病別件数



3 医療従事者、地域住民等を対象とした研修会、講演会等

【1】 医療従事者を対象とした研修会等

①2024.6.26(水) 静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会【集合型】

参加者:医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(19名)

内 容:「静岡県の肝炎対策」「奈良宣言2023について～脂肪肝～」 「グループワーク」

②2024.11.8(金)～30(土) 静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会【WEB配信】

参加者:医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(139名:登録人数)

内 容:「静岡県の肝炎対策」「静岡県の肝炎対策及びコーディネーターに期待される役割」

「ウイルス性肝炎の診断と治療」「肝硬変、肝がん、NASH等の診断と治療」

「拠点病院の活動報告」「患者団体の活動」

④2024.12.2(月)～23(月) 静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会【WEB配信】

参加者:医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(96名:受講人数)

内 容:「静岡県の肝炎対策」「B型肝炎に関する最近の話題」

「多職種によるウイルス肝炎未治療者拾い上げの取り組み」

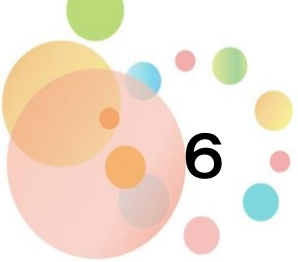
「透析施設における感染対策～職場風土の構築を目指す～」

「保険薬局で取り組む肝炎啓発活動～奈良宣言2023を踏まえて～」

④2025.1.30(木)肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に係る研修会【集合型】

参加者:肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関

内 容:「肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業について」「拠点病院の周知・利用勧奨の紹介」



6

肝疾患連携相談室

【2】 患者、患者家族及び地域住民を対象とした講演会等

1) 市民公開講座『もっと知ろう！肝臓病』

①2024.7.26(土) 浜松市遠鉄百貨店新館: 集合型 参加者: 36名

内容: 「ウイルス性肝炎について」「脂肪肝について」「肝がんについて」

主催: 静岡県及び静岡県肝疾患診療連携拠点病院 共催: 浜松市

②2024.9.1(日)～2025.2.28(金) WEB配信 再生総件数: 16,283件

内容: 「ウイルス性肝炎について」「脂肪肝について」「肝がんについて」「肝炎助成制度の紹介」

共催: 浜松市、静岡県西部保健所、静岡県中部保健所

③2024.10.26(土) 御前崎市立図書館アスパル: 集合型 参加者: 11名

内容: 「肝がんを予防するために今からできること」

「慢性肝疾患患者に対する運動療法について」「あらためて考える感染症対策」

共催: 静岡県西部保健所

2) 出張肝臓病教室

静岡県内の中学生及び高等学校を対象とした肝臓病教室を開催

県立高校(全日制): 11校、県立高校(定時制): 2校、私立高校: 1校、中学校: 3校

合計: 17校 参加人数: 7,403名

6

肝疾患連携相談室

4 肝疾患診療に関する情報収集及び情報提供

<肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動>

1)一般市民への普及啓発活動

①WEB広告

期 間	2024.7.1(土)～2025.2.28(金)
内 容	WEB上(Yahoo・Google)リスティング広告、YDN/GDNディスプレイ広告、YDNインフィード広告、Instagram)に広告を掲載
方 法	WEB上の広告をクリックするとランディングページへ移行、無料肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行う。
エ リ ア	静岡県内全域
年 齢	15歳～無制限(※GDNディスプレイ広告は、18歳以上～無制限)
利用者層	タトゥー・ピアスをしようと考えている方 (興味・関心として風俗、ドラッグなど肝炎リスクが高いと思われる方を含む)

②院内普及啓発活動

㊦毎月28日(土・日祝日の場合は第四木曜日)を肝炎デーとした啓発活動

期間:2024.4月～2025.3月

内容:ポスター掲示及び患者案内システムテロップの掲示、啓発用マスクシールをマスクに貼付し着用

㊧肝炎デー及び肝臓週間に関する普及啓発活動

日時:2024.7.22(月)～7.26(金)

内容:・「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先等において普及啓発活動用に作成したポロシャツ及びTシャツ、マスクを着用
・検査部、入院カウンター等において啓発資材を設置及び配布物の配布

6

肝疾患連携相談室

③院外普及啓発活動

①BOOKアマノさん5店舗での啓発活動

期間: 2024.7.22(月)～7.26日(金)

内容: 各店舗において肝臓コーナーを設置及びポスター掲示、配布物の配布



②浜松市内の医療/健康コーナーがある図書館での啓発活動

期間: 2024.7.1(月)～7.31(水)

昨年度同様浜松市西図書館及び浜松市内の医療/健康コーナーがある8か所の図書館において、浜松市保健所と協力し肝臓コーナーを設置

④クラウドファンディング及び静岡県ウイルス性肝炎啓発イベントの開催
＜クラウドファンディング＞

募集期間を2024.3.25(月)～5.23(木)、目標金額を160万と設定し実施し、228万5千円達成した。

＜静岡県ウイルス性肝炎啓発イベント＞

※県、浜松市、両拠点病院、肝炎医療Co、浜松医大の学生が協同し開催

日時: 2024.7.6(土)

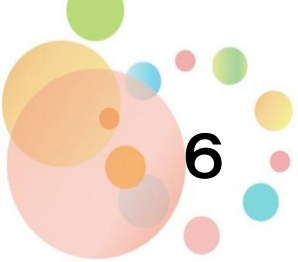
内容: 肝硬度検査・肝臓エコー検査・肝炎ウイルス検査の実施

市民公開講座の開催

グッズ配布、会場の大型ビジョンでの動画配信

DMATと協力し浜医救急車の展示





6

肝疾患連携相談室

2) 当院の肝炎医療コーディネーターの育成

中・高校生を対象とした肝臓病教室、市民公開講座へ参加及び毎月28日のイベント、肝臓週間期間中の啓発活動及び打合せ会を2回開催した。

1回目: 2024.7.6開催のイベントに向け準備

2回目: 勉強会、令和6年度新規Co自己紹介、令和7年度の準備

3) 「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続

肝臓病手帳配布数: 107冊配布

＜内訳＞医療機関へ配布: 2施設／60冊、保健所: 1施設／10冊、一般市民へ配布: 36名／37冊

4) ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進

肝炎ウイルス検査陽性者の院内フォローアップの推進

2018.6.1より入院患者を対象に開始し、2019.7月より外来患者も加え実施

外来・入院患者の肝炎ウイルス検査陽性者をピックアップし、未受診患者の受診勧奨を医師へ依頼

＜結果＞

肝炎ウイルス検査陽性者はHBs抗原295名、HCV抗体183名計478名であった。

陽性者のうち304名、64%が肝臓内科の受診歴があり、昨年度とほぼ変わらない件数と割合であった。

残り174名の内、125名は肝臓内科の医師より付箋不要又は診察記事等により付箋依頼不要と判断となり、49名のカルテに肝臓内科受診・検査の付箋を添付し、6名は肝臓内科受診、40名はRNA検査実施・説明若しくは他院受診となった。

付箋添付数は昨年度からやや減少し肝臓内科受診数も同様である。付箋添付前から主治医が対応しているケースが増加している。

7 なんでも相談窓口





なんでも相談窓口について

なんでも相談窓口は、いつでも気軽に相談できる場として、病院を利用するすべての人の様々な相談に適切に対応し、**患者サービスの質向上を図る**ことを目的とする

役割

各種相談受付及び担当部署への取次・案内

設置場所・対応時間

外来棟2階 病院正面玄関
相談室1室
平日8:30～17:00

対応者

看護師
メディカルソーシャルワーカー
事務職員

相談方法

窓口にて直接対応
院内各部署・部門からの依頼による対応
電話による相談

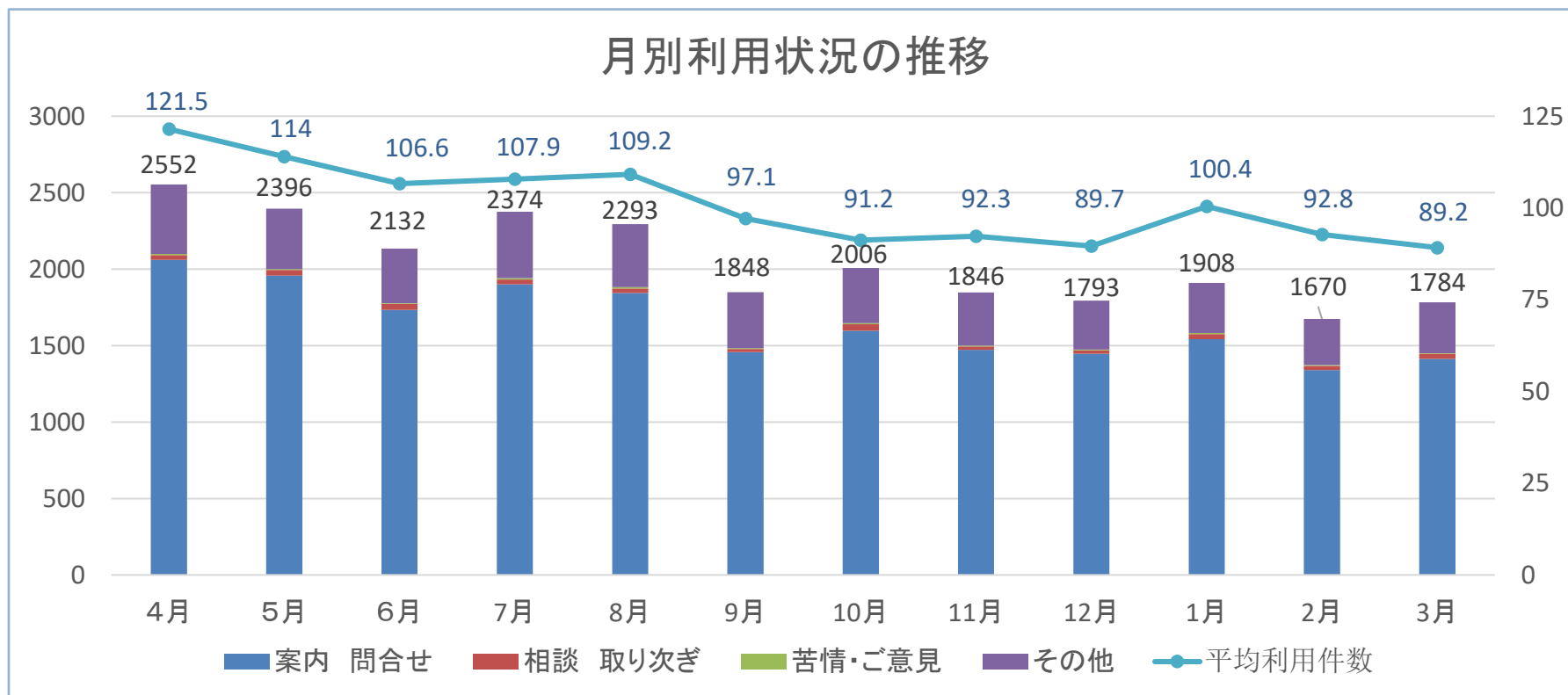


なんでも相談窓口稼働実績

令和6年度なんでも相談窓口は243日稼働した。

相談窓口の利用件数は24602件で、1日平均利用件数は101件であった。

令和6年度は年間通しての稼働となり利用件数は310件増加したが、平均利用件数は減少した年度の後半では窓口利用者は2000件を下回る月が多かった



利用目的と案内・対応先

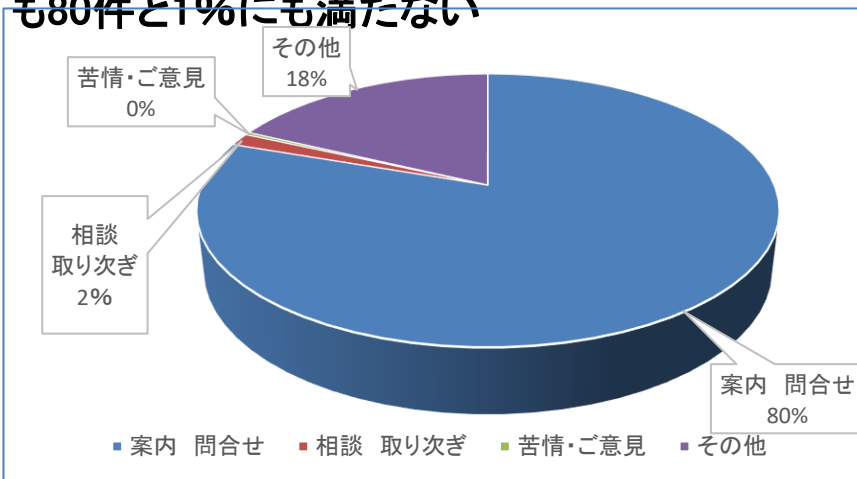
利用目的

窓口に来られる方の8割がインフォメーション
目的で利用される。

窓口で一時対応し、部署やMSWに取り次ぐ
ケースは2%程度である。

来院時の乗乗の補助や体調不良患者や急変
対応に看護師が関わるケースがあり、その他
に分類している。

苦情やご意見は減少傾向にあり、年間通して
も80件と1%にも満たない



案内先

総合受付

初診・再診受付 保険証確認

文書発行受け取り

料金計算・支払い窓口

入院受付

外来診療科受付

病棟・面会案内

駐車場割引認証

医療福祉支援センター

・来院時の受付から受診後次回の外来予約や処方箋の取り扱い、面会家族や来客者の対応等、

院内全般の部署へ案内している。

・外来のサインボードの変更により、入院受付やトイレへの案内件数は減少した

・病院正面玄関に位置しており、業者や来客にも一定数対応している。

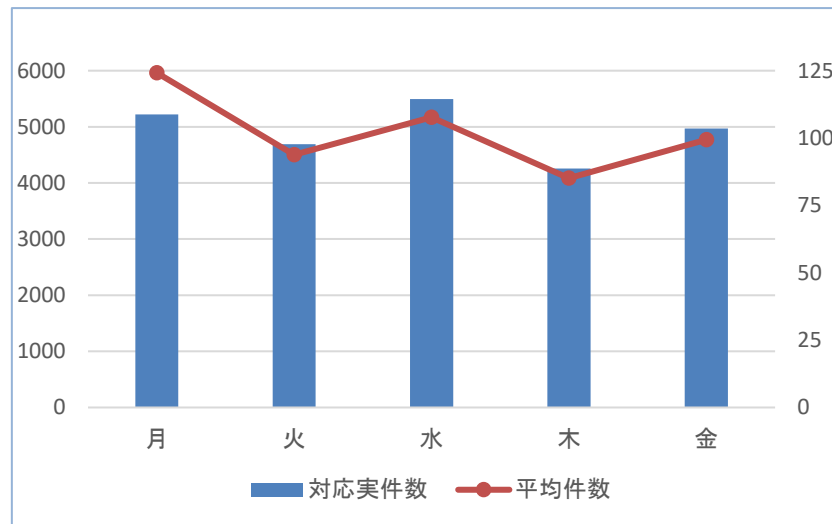


曜日・時間帯別利用件数

曜日別利用件数

祝日などで稼働の少ない曜日がある為、実利用件数と平均件数で比較した。

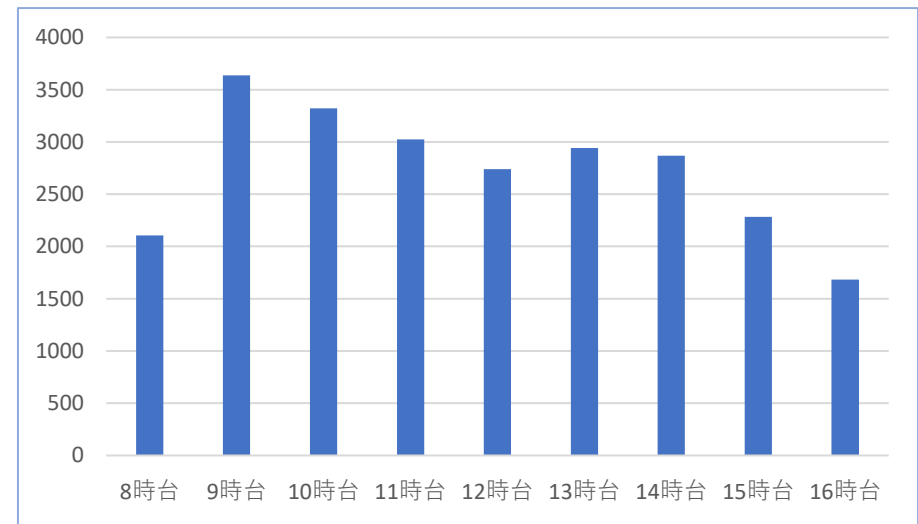
月曜日の利用件数は多いが他の曜日特徴的な傾向はみられない。



時間帯別利用件数

8時台は30分の稼働のため実件数は少ないが、利用時間帯による窓口利用者数のピークは8時～10時台。

面会時間が始まる13時頃再び増加し15時以降は緩やかに減少する。



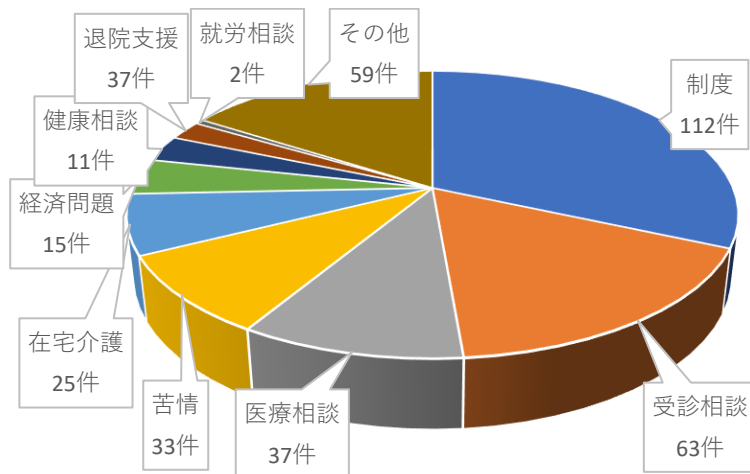
相談・取り次ぎ

相談対応件数 365件

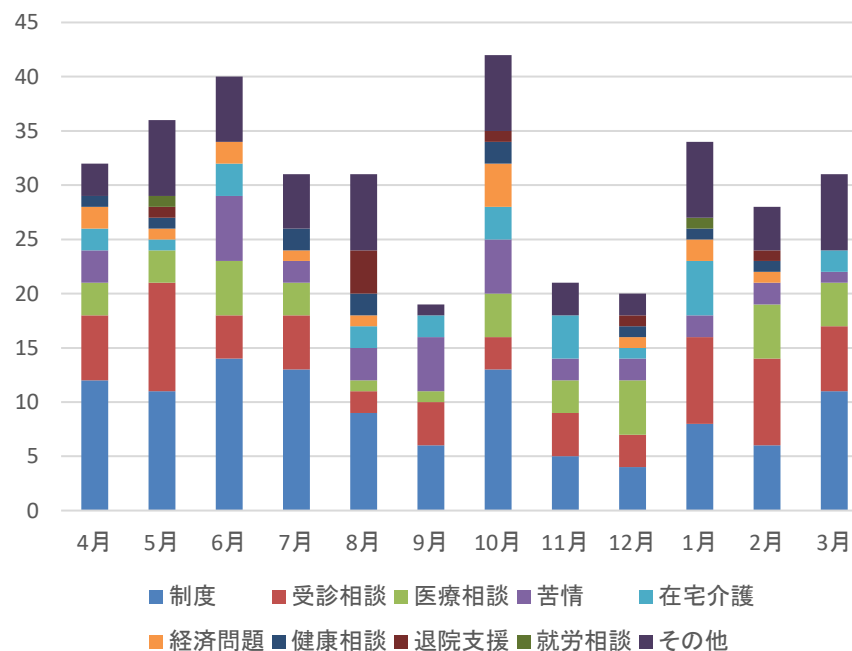
電話対応 53件

窓口対応 312件

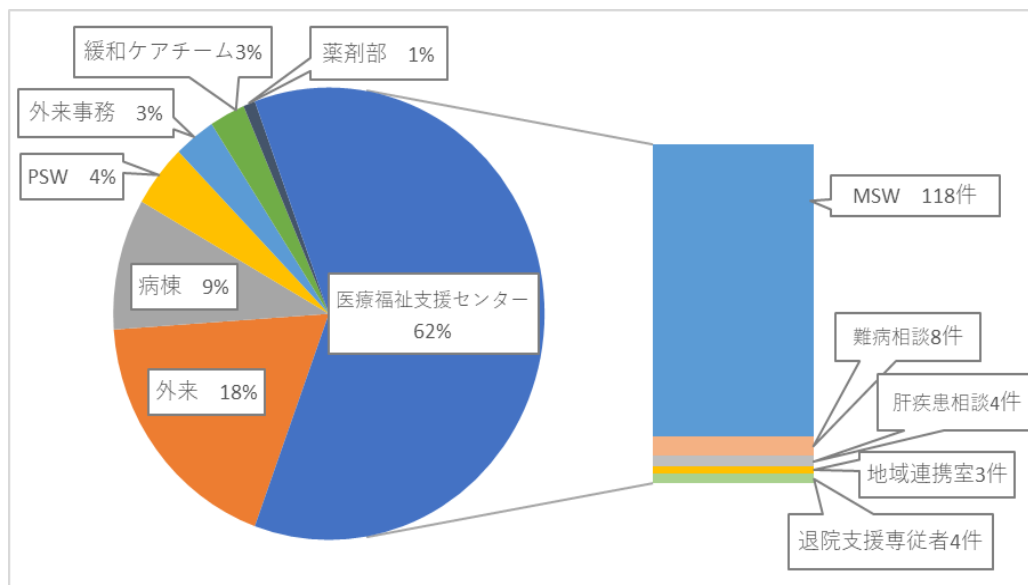
内容別内訳



相談・取り次ぎ件数月別推移



相談・取り次ぎ



- ・相談対応365件中、取り次ぎ対応を依頼した件数は224件
- ・取り次ぎ先は、相談部門として各種相談を業務としている医療福祉支援センターに6割程度、次いで外来診療科に2割 病棟に1割弱と続いている。
- ・医療福祉支援センターへは制度の説明や経済的困窮や退院支援などの対応を依頼する事が多く、対応者はMSWが多数を占めている。



苦情ご意見

対応件数 80件(昨年比19件減)

接遇・施設の不備や医療相談以外の苦情

外来の電話が通じない

駐車場や駐輪場の不備

受付対応職員の態度が悪い 等

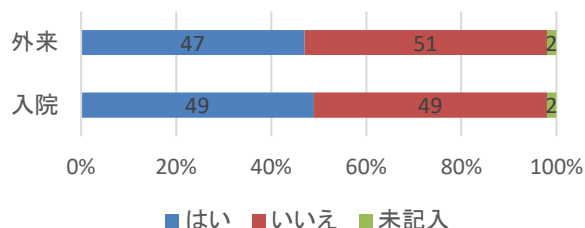
設備の不備や故障は直接対応部署に改善を依頼し対応している

医療サービスWGで報告し改善策を検討している

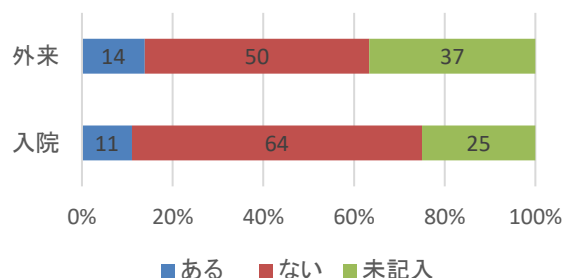
昨年と比べて2ヶ月稼動が長かったが、対応件数は減少している

なんでも相談窓口利用に関するアンケート

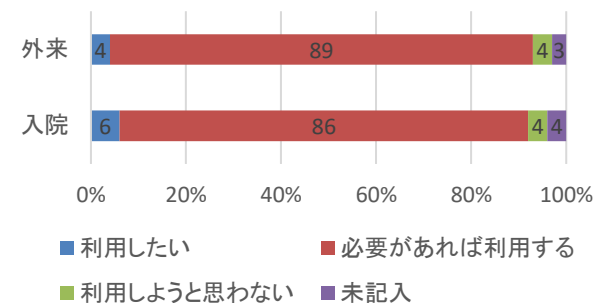
なんでも相談窓口を知っているか



利用した事があるか



利用したいと思うか



なんでも相談窓口利用に関するアンケートを実施した。

- ・概ね半数の患者がなんでも相談窓口を認知している。
- ・利用経験は外来患者の方がやや多い。
- ・ほとんどの患者がなんでも相談窓口を利用したいと思っている。

窓口の前を通るなど直接窓口を見て知ったとの回答が多いが、2割弱の人は掲示物やリーフレットなどで知ったと回答している。



まとめ

病院正面玄関になんでも相談窓口が設置され、多くの人が利用している。
窓口看護師が配置されていることにより、急変対応や受診相談に迅速に対応できている
社会保障制度などの相談に対してはMSWと連携し対応している。
患者満足度調査によると、窓口の周知は50%程度 利用希望は95%弱。
利用目的は案内が大半を占めるが、インフォメーション業務を担う事で、来院者の満足に繋がっている。

【令和7年度目標】

- ・接遇を強化し、利用しやすい窓口を目指す